



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

旧首都大学東京

大学院案内

GRADUATE SCHOOL INFORMATION 2021



首都大学東京は、2020年4月1日に大学名称を東京都立大学に変更しました。

## TMU Vision 2030

# ～学問の力で、 東京から世界の未来を拓く～

東京都立大学は、東京都が設置する唯一の総合大学として、本学の特長を活かした教育を実施することにより、社会の変容に応じて活躍できる人材を輩出するとともに、多彩な基礎研究や応用研究、大都市課題研究を推進することで、東京都の発展に貢献し、ひいては世界の未来を拓いていきます。

## 東京都立大学のあるべき 将来像を描いたトップビジョン

### 1. 高度な研究力と質の高い教育の好循環

卓越した研究者でもある教員が、高度な研究力に裏付けられた質の高い教育を提供し、高い資質・能力を有する学生と共に議論を深めることで研究力をさらに向上させる「高度な研究力と質の高い教育の好循環」を一層加速させます。

### 2. 学び続ける力を有し、協働して新たな価値を創造できる人材の育成

幅広い学問分野を有し、真面目な学生が集う本学の特色を活かし、学生と教員の密度の高い対話、異なる価値観を有する学生同士の切磋琢磨を通して、興味・関心の幅を広げ、深く考え抜く力を高めることで、主体性を持って課題を設定し、協働して新たな価値を創造できる人材を育成します。

### 3. 多様な人々が集い、学び合う、開かれたキャンパス

国籍、文化、性別、年代、障がいの有無等を超えて多様な人々が集い、学び合い、相互に尊重し合うキャンパスを実現するとともに、生涯を通じた学びに資するため、広く地域や都民に学習や交流の場を提供します。

## Contents

TMU #SYSTEM	
p002	大学院での高度な専門性の修得を 学業奨励や経済面で支援します
p002	時代の要請に応える7研究科 学内進学制度 早期卒業制度 早期履修制度 奨学金制度
p003	大学院分野横断プログラム 長期履修制度 ティーチング・アシスタント(TA)制度 大学院生国際学術会議派遣支援事業 科目等履修生
研究 Close Up	
p004	人文科学研究科
p005	法学政治学研究科
p006	経営学研究科
p007	理学研究科
p008	都市環境科学研究科
p009	システムデザイン研究科
p010	人間健康科学研究科
p011	学長メッセージ
研究科/専攻・学域	
p012	人文科学研究科 p012 社会行動学専攻 p013 人間科学専攻 p014 文化基礎論専攻 p015 文化関係論専攻
p016	法学政治学研究科 p016 法学政治学専攻(法律学分野/政治学分野) p017 法曹養成専攻(法科大学院)
p018	経営学研究科 経営学専攻 p018 経営学プログラム 経済学プログラム p019 ファイナンスプログラム
p020	理学研究科 p020 数理科学専攻 p021 物理学専攻 p022 化学専攻 p023 生命科学専攻 生命科学領域/応用生命科学領域
p024	都市環境科学研究科 都市環境科学専攻 p024 地理環境学域 p025 都市基盤環境学域 p026 建築学域 p027 環境応用化学域 p028 観光科学域 p029 都市政策科学域
p030	システムデザイン研究科 システムデザイン専攻 p030 情報科学域 電子情報システム工学域 p031 機械システム工学域 航空宇宙システム工学域 p032 インダストリアルアート学域
p034	人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 p034 看護科学域 理学療法科学域 p035 作業療法科学域 放射線科学域 p036 フロンティアヘルスサイエンス学域 ヘルスプロモーションサイエンス学域
p038	大学院入試状況
p039	学費/奨学金
p040	大学院選考日程
p041	アクセスマップ

※表紙写真:インフォメーションギャラリー

# 大学院での高度な専門性の修得を 学業奨励や経済面で支援します

高度な専門性の修得を目指す大学院での学びは、自主的学修を基本とします。  
東京都立大学大学院はその姿勢を後押しするため、学修の奨励、目的の早期達成、経済的支援、  
国際学術界への進出などをサポートする、さまざまな制度を整えています。

## 時代の要請に応える7研究科

研究科	専攻	入学定員			
		博士前期	博士後期		
人文科学研究科	社会行動学専攻	14名	10名		
	人間科学専攻	17名	6名		
	文化基礎論専攻	13名	5名		
	文化関係論専攻	5名	4名		
法学政治学研究科	法学政治学専攻 法律学分野 政治学分野	6名	4名		
	法曹養成専攻(法科大学院)	40名* ※専門職学位課程			
経営学研究科	経営学専攻 経営学プログラム 経済学プログラム ファイナンスプログラム	50名	5名		
	数理学専攻	25名	8名		
	物理学専攻★1 化学専攻★1 生命科学専攻★2 生命科学領域 応用生命科学領域	35名 35名 40名	10名 9名 16名		
都市環境科学研究科	都市環境科学専攻 地理環境学域 都市基盤環境学域 建築学域 環境応用化学域 観光科学域 都市政策科学域	15名 35名 35名 50名 15名 15名	5名 4名 4名 6名 5名 5名		
	システムデザイン研究科	システムデザイン専攻 情報科学域 電子情報システム工学域★1 機械システム工学域★2 航空宇宙システム工学域 インダストリアルアート学域	35名 60名 65名 30名 25名	6名 6名 6名 4名 4名	
		人間健康科学研究科	人間健康科学専攻 看護科学域 理学療法科学域 作業療法科学域 放射線科学域 フロンティアヘルスサイエンス学域 ヘルスポモーションサイエンス学域★2	10名 17名 10名 21名 4名 8名	4名 5名 4名 6名 2名 4名

2018年度から大学院分野横断プログラムとして、「超伝導理工学プログラム」(対象専攻・学域★1)と「生体理工学プログラム」(対象専攻・学域★2)を開設しています。

## 学内進学制度

学内学部生向け

### 学内進学の希望者は 筆記試験が免除されます

東京都立大学大学院への学内進学を希望し、学部において優秀な成績を修めている学生に対して、筆記試験などを免除する制度があります。  
※人文科学研究科、法学政治学研究科(法曹養成専攻)、経営学研究科、人間健康科学研究科の一部学域は除く。  
なお、法学政治学研究科(法曹養成専攻)は2022年度導入予定。

## 早期卒業制度

学内学部生向け

### 学内進学希望者は 3年間で学部卒業が可能です

東京都立大学には、3年次修了の段階で学部の卒業を認める制度があります。実施しているのは法学部、理学部、都市環境学部、システムデザイン学部の4学部です。卒業後に大学院への進学を予定しており、一定以上の成績を修めている学生が対象です。  
※法学部は法科大学院進学のための法曹養成プログラムのみが対象です。

## 早期履修制度

学内学部生向け

### 学内進学希望者は学部在学時に 大学院の科目が履修できます

東京都立大学大学院への進学を希望する優秀な本学学部生が、学部在学中に本学大学院の科目を履修できる制度です。大学院進学後に、履修した科目の単位を大学院の単位として認定します。  
※経営学研究科、理学研究科、人間健康科学研究科で実施。

## 奨学金制度

全対象者

### 大学院生を対象とした 法人独自の奨学金制度を整備

東京都立大学大学院の学生を対象とする法人独自の奨学金制度として「東京都立大学大学院生支援奨学金」と「東京都立大学博士後期課程研究奨励奨学金」があります。どちらも優秀な人材の輩出、および研究に専念するための支援を目的とした給付型の奨学金です。



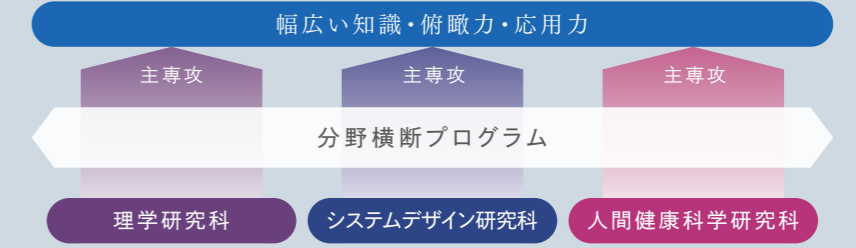
## 大学院分野横断プログラム

全対象者

### 研究科や専攻の枠を超え 分野横断的な科目を体系的に履修

主専攻の科目に加え、研究科や専攻の枠を超えた分野横断的な科目で構成される体系的なプログラムを履修することにより、他分野の先端的な研究を学ぶことを通じて自身の研究力をさらに高めるとともに、研究に対する視野を広げ応用力を身につけることを目指します。

### プログラムのフロー



## 長期履修制度

全対象者

### 仕事やライフイベントに応じて 自身の就業年数を延長できます

仕事、および出産・育児、介護などの事情を持つ場合、大学院の標準修業年限を超えて各課程の履修を認める制度です。入学後も申請は可能ですが、入学前に申請すれば、授業料の年額は標準修業年限分を、在学期間に応じて分割した額となります。

※人文科学研究科、経営学研究科博士後期課程、理学研究科、都市環境科学研究科、システムデザイン研究科、人間健康科学研究科で実施。

### 授業料イメージ(博士前期課程)

単位:円

年次	前期	後期	一般学生(参考)	4年間の長期履修
			1年	260,400
2年	260,400	260,400	130,200	
	260,400	260,400	130,200	
3年	—	—	130,200	
	—	—	130,200	
4年	—	—	130,200	
	—	—	130,200	
合計			1,041,600	1,041,600

## ティーチング・アシスタント(TA)制度

全対象者

### 教員と共に授業運営をサポートし 自らのキャリア形成を図る



大学院生の教育力向上と経済的支援を目的にTA制度を充実。業務の難易度により複数の職区分を設けていることが特徴です。教員と共に授業をサポートし、自らのキャリア形成を図ることができます。

## 大学院生国際学術会議 派遣支援事業

全対象者

### 国際学術会議への出席にかかる 渡航費用を支給します



外国で開催される国際学術会議に大学院生を派遣する際、渡航にかかる旅費を支給する制度です。国際的視野を有する優秀な研究者の育成・確保を図ることを目的とします。

## 科目等履修生

全対象者

### 興味のある特定の科目だけを学ぶ パートタイムの科目履修

フルタイムでの学修が難しい方や、興味のある特定の科目だけを学びたい方を対象に、1科目または複数の科目を履修し、受講した科目の単位を取得できる制度です。各研究科の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ科目等履修生として入学を許可します。本学学部(旧都立大含む)の卒業生は、教員免許や学芸員資格の取得のため、この制度を利用できます。

### 対象研究科・専攻

- 人文科学研究科  
お問い合わせ:042-677-2053
- 経営学研究科 経営学専攻  
お問い合わせ:042-677-2303
- 理学研究科 生命科学専攻  
お問い合わせ:042-677-2558
- 人間健康科学研究科  
お問い合わせ:03-3819-1211(代)

科目等履修生が履修を許可される科目、出願資格、選考方法、修得可能な単位などは、研究科により異なります。詳細については、各研究科までお問い合わせください。

## 古代ギリシャ哲学の「混合」の概念により 現代のグローバル社会のあり方を考える

## 当事者の行動インセンティブを踏えて 制度の機能と効率性を考察する



### 小さく分ければ別のものを 一つの世界観で捉える

古代ギリシャ時代の哲学には、今でいう物理学や生物学が含まれます。人間についてももちろん、水や空気、天空の星々、木や金属といった物質、炎や腐敗などの現象、そして人間以外の多種多様な生物など、現代であれば異なる学問で扱う対象を、全て身の回りの不思議を解明して「世界を理解する」哲学の枠組みとして一つの世界観を形成し、共通の言葉で語りました。私はそこに「混合」という概念を見出します。古代ギリシャ人は、あらゆる物質についても、火・空気・水・土という4つの要素が混合して構成されていると考えていたのです。

もちろん、その説は長い歴史の中で改められますが、ルネサンス期にふたたび脚光を浴び、古代ギリシャの世界観が文学や美術作品として描かれました。一方で多様な異なるものを混合させ秩序立てた世界観は、現代のグローバル社会のあり方に見ることもできます。小さく分ければ別のものですが、それらを混合させて一つのものとする古代ギリシャ哲学の考え方から、現代社会のあり方や、捉え方を学ぶことができるのではないのでしょうか。

### 人間の本质は 多様性を求めている

私が今、強い関心を寄せているのは、古代ギリシャ人の生物に対する考え方であり、特に当時の「雑種」の捉え方と、その概念の今日に至る変遷を研究しています。例えば、人間の上半身と馬の下半身をあわせて持っていたり、翼を羽ばたかせる鳥の上半身と強靱な4本脚で大地に立つライオンの下半身を持っていたりする生物は、現代の考え方ではファンタジーの異形です。しかしあれらの造形は、人間の知力に馬の脚力を備えたい、大地を駆け大空を舞う力を身につけたいという願いの表れであり、人間の理想の姿を表現しています。現代は「ピュア」に価値を置く傾向がありますが、「雑種」にこそ生命の強さが宿ると感じ取ることもできます。「ピュア」を求める選民主義による植民地支配が終わった後、当時の支配者と被支配者の文化が混合した、その点で雑種の秩序といえるポストコロニアルが注目されることやグローバル化の進展も、人間の本质が多様性を求めているからかもしれません。

#### Profile

人文科学研究科 文化関係論専攻  
GROISARD Jocelyn  
(グロワザール ジョスラン) 准教授

フランス国立高等研究院で学び、2009年来日。  
2010年から日本で教鞭を執り、2016年から現職。

### 株主代表訴訟について 日・米・中の制度を比較

法学研究に「法と経済学」というアメリカ発の学際的分野があります。伝統的な法学が比較法研究や判例研究に重きを置き、制度運用の整合性や安定性を問うのに対し、「法と経済学」は経済学の視点や手法を用いて法制度を分析します。

会社法や商法を専門とする私が「法と経済学」の視点で着目するのは、法制度の機能と効率性および当事者の行動インセンティブです。

前者では、とある目的を達成するための制度設計に選択肢がある場合、得ようとする機能を実現できる効率性の高い制度はどれかを考察します。

また後者は制度の対象となる当事者の動機づけや法令遵守に努める要因を分析します。たとえ強い強制力や罰則が設けられていたとしても、当事者の行動インセンティブを無視した制度設計は、最小の社会的コストで効率よくその目的を実現できません。

こうした観点から私は会社法に定められた株主代表訴訟について研究しています。日本の株主代表訴訟の制度は、アメリカのそれをモデルとして定められました。また中国では2006年の会社法改正で、株主代

表訴訟の制度が盛り込まれました。制度設計が異なる日・米・中の制度の機能と効率性を比較しながら、より合理的な制度のあり方を考えています。

### 活発な運用を促すか 濫用の予防重視か

日本とアメリカは、1株を持っていれば訴訟を提起できます。株主であれば誰でも権利を行使できる間口の広い設計が成されていますが、その分、制度の濫用が危惧され、訴えの却下や和解を含めて訴訟を終了させる制度の整備が重要です。一方、発行株式数の一定割合を有していないと訴訟を起こせない中国の制度は、濫用を予防するため間口を狭くした設計です。そのため、2006年にこの制度が定められましたが、ほとんど活用されていません。株主代表訴訟の制度は、会社に対する経営者の責任を問う株主権を定めたものであり、活発かつ健全に利用されるための設計が求められます。

私の問題関心は、特に制度の適用対象となる当事者の行動インセンティブにあります。最小の社会的コストで制度目的を実現するには、当事者の動機づけを考慮することが重要だと考えるからです。

#### Profile

法学政治学研究科 法学政治学専攻  
顧丹丹 准教授

2008年、文部科学省国費留学生として来日。  
2013年、首都大学東京社会科学部で博士号を取得。

## 経済学や経営学が扱う現実の課題を 数学により記述し解決に導く



### 数学の理論による 効率的な計画立案

オペレーションズ・リサーチ (OR) や最適化は、現実問題を解決するために体系立てられた学問です。身近なところでは複数の拠点を最短距離でまわる営業活動や物流の経路選択や過不足のない在庫管理などに活用されており、つまり効率的な計画を立てるための技法として実社会でその理論が応用されています。そして、私が数学の世界で1990年代半ばに提唱した「離散凸解析」も、ORや最適化の分野で用いられています。

「離散凸解析」とは、連続変数に関する最適化において理論の核となっている凸解析と、離散変数に関する最適化に適した構造と認められていた理論をかけ合わせ、双方から最適化問題を考える枠組みとして考案したものです。若い頃から独自の研究とはどういうものかを模索し続け、たどり着いた一つの世界です。

### 思いもよらぬ応用により 社会と近接する数学

連続変数の方がコンピューターで扱いやすい反面、現実の社会では例えば自動車を1.5台であるとか、家

を2.7軒と数えるわけにはいきませんから、整数を扱う離散変数でなければ実効性のある問題解決には至りません。その点で、最適化の理論として確立されていた凸解析を離散変数の世界から眺めた試みが、その問題の解決に期待されたのです。ただし、私が「離散凸解析」を考えたのは数学の問題であり、その独自性ゆえか、これを発表した当初は、一部の若い研究者を除き学会からは相手にされなかったという経験もあります。しかし、数学の理論とは面白いもので、体系立てた考え方や切り口に理論名を冠して提示すると、思いもよらぬ応用先が開けてくることがあります。「離散凸解析」の理論が、在庫管理やゲーム理論に応用されたのは想定外の展開でした。

ガリレオは「自然は数学の言語で記述されている」と説きました。実際、自然界における現象の解明には物理学をはじめとして数学の考え方が多分野で用いられています。情報が発達した現代は社会のありようを、情報という切り口を通して数学で語るようになりました。経済学や経営学の課題解決に数学が応用されているのはその顕著な例といえます。社会と数学は急速に距離を縮めています。「離散凸解析」が学問分野を越えて広く使われ、人々に意識されないレベルに浸透することが、研究者としての私の夢です。

### Profile

経営学研究科 経営学専攻

室田 一雄 教授

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。東京大学と京都大学の名誉教授。2015年から現職。

## 精密有機合成を実現可能とする高性能分子触媒の開発 触媒の特徴を活かした新規高機能材料の創製



### 幅広い科学の視点から 触媒研究に凝縮する

合成化学、触媒化学、有機金属化学が、私の研究分野です。複数の分野が並ぶのは、これまでのキャリアが関係しています。学部時代の卒業研究は有機化学、大学院の博士前期課程は物理化学、米国留学時には無機化学の研究室に所属し、企業在籍時は応用化学の研究に携わりました。それでも研究の核は有機金属化学・分子触媒化学で、関連した幅広い研究テーマに取り組んでいます。

金属-炭素結合を有する有機金属化合物は、炭素-炭素結合の形成を仲介する触媒反応の中間体で、触媒のデザインや機能の解明に有用な役割を担います。今までにない独創的な着想で高性能分子触媒をデザインし、化学・物理の分野横断型の基礎研究を通じて、広い視野で触媒反応を緻密にデザインすることで、今まで実現できなかった新しい合成反応の開拓や特徴を活かした新規材料の創製を達成してきたのが、この研究室の特徴です。

### Profile

理学研究科 化学専攻

野村 琴広 教授

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。企業在籍中に大阪大学で博士号取得。2010年から現職。

### 豊かな次世代社会の構築を 指向した高性能分子触媒の開発

環境低負荷型の効率合成反応や新しい機能物質の

開発には、高性能分子触媒の創製が重要な役割を果たします。この目的の実現には、独創的な着想と関連の化学反応の基礎理解が重要で、今までに多くの成果を達成しています。例えば大学院時代の有機金属触媒によるアルカンのC-H結合活性化を経由する液相脱水素反応は、今でも専門書で頻りに紹介される成果です。企業在籍時には、独自の触媒設計指針に基づき、グリーンケミストリーを指向した効率合成反応により、工業化に成功し、学会賞を2件受賞しています。最近学会賞を受賞した高性能オレフィン重合・二量化触媒の設計・創製に関する研究も、独創的な触媒設計指針に基づき、新しい効率合成反応や材料合成に展開した成果で、教科書や専門書で広く紹介されています。この目的の達成により、環境負荷の低減化や省エネルギーに大きく貢献し、新しい機能物質の開発による豊かな次世代社会の実現に大きく貢献できるようになると期待しています。

触媒化学は、ノーベル化学賞受賞者も複数輩出する、日本が世界に秀でる分野です。この研究室は海外の大学や企業との共同研究も盛んで、日本人学生の多くが研究室配属後に海外留学を経験しています。国際競争の激しいこの分野で、世界の研究動向や社会のニーズを捉える広い視野を持って、化学を通じた社会貢献への意識を高めることができるのがこの研究室の特徴です。

## 古民家を地域コミュニティの拠点に再生し 持続性のある福祉のまちづくりに挑む



### 建築に関わる多分野が 連携するプロジェクト研究

2020年4月にスタートした、古民家の活用による福祉のまちづくりや地域活性を目指すプロジェクトには、建築に関わる多分野の研究者と学生が参画しています。プロジェクトの目的は、放置すれば廃墟となりかねない古い木造建築を改修し、地域コミュニティの拠点となる福祉施設などに再生するための手法を確立し提案することです。

そのため医療福祉施設の建築計画を専門とする竹宮健司教授、木質構造が専門の多幾山法子准教授、建築生産・構法の角田誠教授と建築材料の國枝陽一郎助教の、4研究室が協働して自治体や地域コミュニティと連携を図り、各研究室の博士前期課程の学生も参加する2年間のプロジェクトを立ち上げました。

プロジェクトに先行して竹宮研究室と多幾山研究室が古民家を実測調査。柱や梁の寸法、間取りなど平面図を起こすためのデータを取得するだけでなく、天井裏や床下も自身の目で見て、過去の設計者や施工者の意思や技術を感じ取ります。拠点の一つ、東京都八王子市内では約30軒の古民家を実測し、コミュニティ施設や福祉施設として再生可能な家屋を選びます。今後、選定

した古民家に対してアプローチし、現地調査に基づく提案をまとめます。

### まちづくりの手法を 全国の里地里山に提案

山間部と都市部との間に位置し、集落とそれを取り巻く森林や農地、川や池により構成される里地里山は、日本の国土の約4割を占めています。しかしその多くは人口の高齢化が著しく、過疎が進んでいます。農林業の担い手がいなくなって田畑や山が荒れ、環境や景観が維持できなくなり、すでに廃村の危機に瀕する集落も少なくありません。里山の価値を見直し、環境保全に動く産官民の活動は全国で見られますが、いずれも十分な学術調査がなされていないのが現状です。

そうした里山が、今もそこに住む人たちにとっては住み慣れた愛着のある地区であることに変わりはありません。里山里山の暮らしが今後も継続できるようにするため、持続的なまちづくりにつながる手法を、本プロジェクトから創出します。

プロジェクトは八王子市に加え、石川県羽咋郡を拠点としますが、そこで得た提案を共通の課題をもつ全国に広めたいと考えています。

### Profile

都市環境学研究科 建築学域

竹宮 健司 教授

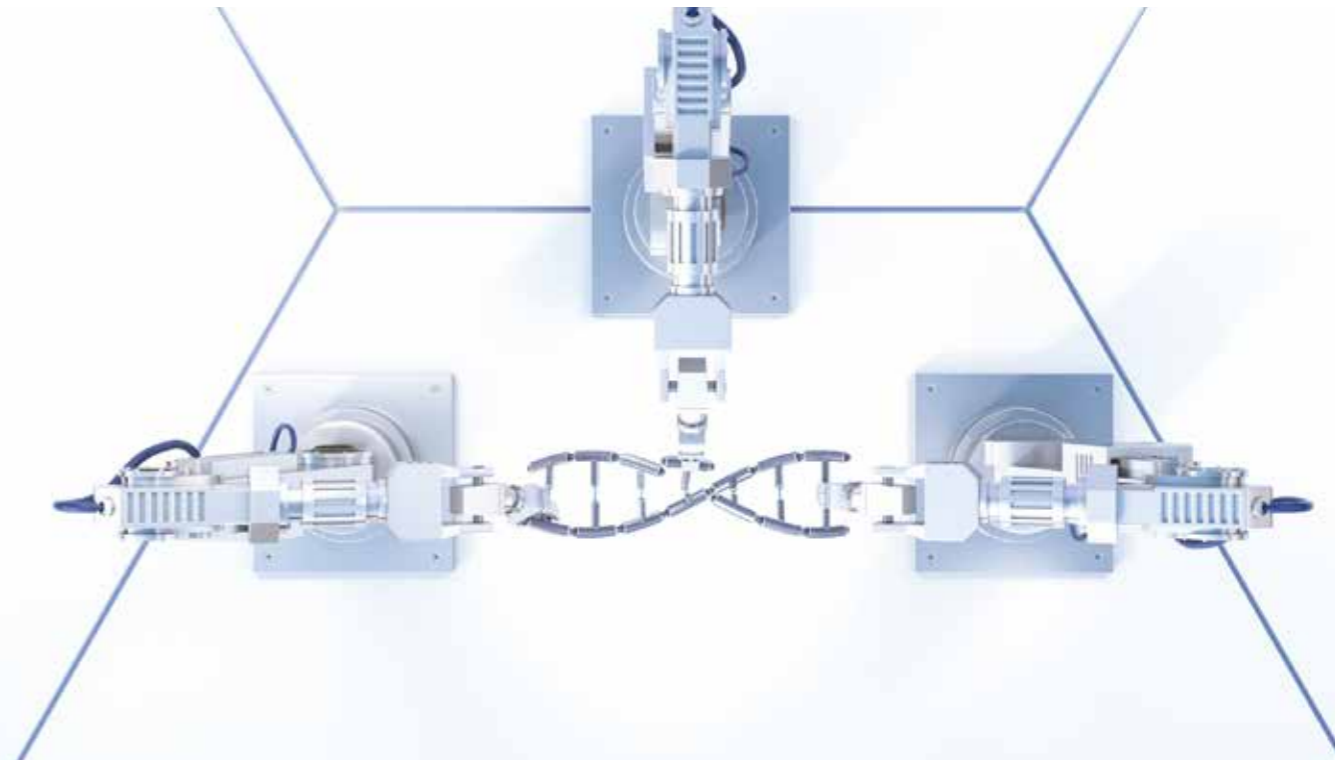
東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士後期課程修了。2010年から現職。

都市環境学研究科 建築学域

多幾山 法子 准教授

京都大学大学院工学系研究科建築学専攻博士後期課程修了。京都大学助教を経て、2013年から現職。

## 医療・福祉や災害現場で活躍するロボットを 3研究室が連携して開発する



### 独立した3研究室が 柔軟に共同研究

久保田直行教授は認知科学や脳科学をロボット研究の背景とし、人のパートナーとなるロボットを研究しています。武居直行准教授はロボットの機構や運動制御など機械工学的な研究を専門とします。和田一義准教授は人とロボットとの協調をテーマに、ロボットが人のメンタルに与える影響の研究やインターフェースの開発に取り組んでいます。

移動系の研究では、久保田教授が多足歩行を追求しています。武居准教授は水中や水上の移動、羽ばたきによる飛行を対象とし、和田准教授が企画・運営に関わる「ワールドロボットサミット」のサービス部門においては、武居・和田研究室の共同でトイレ掃除ロボット競技を考案しています。

### 互いの技術を理解し 目的に応じて協力

システムデザイン研究科機械システム工学域のロボット系3研究室は、普段はそれぞれの研究で独立していますが、テーマを共有する医療や福祉分野での支援ロボットの開発をはじめ、目的や必要とされる技術に

じて柔軟に連携します。内閣府が主催して2014年から4年のプロジェクトが組まれた「革新的研究開発推進プログラム ImPACT」の「タフ・ロボティクス・チャレンジ」では、3研究室が他の大学や研究機関とも連携して災害時用ロボットシステムを開発しました。

このプロジェクトでは、他大学で開発された四脚ロボットが災害現場の混乱した状況下で移動するためのセンサシステムを開発しました。レーザ距離センサを複数台使い、センサが計測した信号の処理を久保田研、モーターでセンサを動かす動作生成を武居研、人が遠隔で操作するためのインタフェースを和田研、がそれぞれ担当しました。このセンサシステムにより、周囲の様子を三次元的な情報として捉えることができ、その結果、ロボットの進む道が平坦なのか、足元が悪いのが判断できます。段差を越えて現場に到着し、ドアを開けたり、はしご段を上ったり、破損したパイプのバルブを開けるといった動作を行えるようになります。

各研究室は独立しているものの、共同研究の時だけ顔を合わせていたのでは円滑な連携は望めません。3研究室は合同してゼミを開くほか、卒業生や共同研究先の企業担当者も交えて総勢100人もが参加する合同忘年会を恒例としています。そうした日頃の交流から生まれたアイデアや企画も少なくありません。

### Profile

システムデザイン研究科  
システムデザイン専攻 機械システム工学域

久保田 直行 教授

名古屋大学大学院工学系研究科博士後期課程修了。大阪工業大学、福井大学を経て2012年に教授に。

システムデザイン研究科  
システムデザイン専攻 機械システム工学域

武居 直行 准教授

大阪大学大学院工学系研究科博士後期課程修了。名古屋工業大学などを経て、2008年から現職。

システムデザイン研究科  
システムデザイン専攻 機械システム工学域

和田 一義 准教授

2007年から現職。学外では、2016年からロボット国際競技大会実行委員会委員などを務める。

# 理学療法の効果を実証する手法を 障がい者スポーツの技術指導に応用する



## 臨床の現場で芽生えた 問題意識を研究につなぐ

理学療法はもともと、障がいのある人が日常生活を送るための、身体機能の回復を支援するものでした。もちろん現在も、理学療法士は医療機関におけるリハビリテーションをサポートする医療技術者として重要な役割を担っています。これと並行して近年は、理学療法で用いられる筋力の増強や関節の可動域の拡大を図る技術を、高齢者や子どもなど幅広い世代のけが予防に応用されることや、アスリートのパフォーマンス向上への効果を期待されることなど、理学療法士が活躍する場も広がっています。

私が臨床経験を通して抱いた問題意識も、当初は障がいのある人に対して効率性の高いリハビリテーションを提供することにありました。そして、リハビリテーションの効果を十分に把握するためには広い知識と視野が必要だと思いました。患者の回復には、病状や環境の変化などさまざまな要素が含まれるからです。そこで、臨床にいながら大学院に身を置き、理学療法の効果を測定して正しく評価する研究に取り組みました。理学療法の技術が身体機能の回復にどれだけ効果をもたらしているかを、部位や技術別に検証しています。

## 理学療法を応用した トップアスリートへの指導

体を動かすことが回復を促進することも、臨床経験の中で実感していました。それは理学療法ではないかもしれませんが、身体機能の回復という点では重要な経験的知識です。そこで、高齢者や子どものけが予防を目的とした地域スポーツの普及活動に、理学療法士としての立場で参加しています。さらに学生時代から車いすバスケットボールに関わっていたこともあり、私の研究に障がい者スポーツの指導法が加わりました。障がい者が一人ひとり異なるように、スポーツも選手により特性が違うため、一つの方法を全選手に当てはめることはできません。そのため選手へのアドバイスは、三次元の動作分析に基づき、さらに選手が強化したい競技技術に応じて、理学療法の技術を組み合わせました。

東京2020パラリンピックが開かれるためトップアスリートとの関わりが増えていますが、私の強い関心は、障がい者も参加できる地域スポーツの普及にあります。私は9年の臨床を経て研究の道を選びましたが、現役の学生が実務経験者かを問わず、問題意識が芽生えた時が研究の始まりであり、研究が理学療法士のフィールドをさらに広めると 생각합니다。

### Profile

人間健康科学研究科  
理学療法科学域

信太 奈美 准教授

理学療法士として実務経験を積んだ後、筑波大学大学院、早稲田大学大学院で学び、博士号を取得。

## 学長メッセージ



## 「高い研究力」と「質の高い教育」との好循環を実現 世界から注目される最先端の研究の場

本学は、2020年4月に大学名称を、「首都大学東京」から「東京都立大学」に変更いたしました。

これまで、世界有数の大都市である東京都が設置する唯一の総合大学として、世界トップクラスの大学であり続けたいと、教育、学術研究はもとより、国際化、ダイバーシティ、社会貢献などの分野においても、環境の整備を続けてきました。このたびの名称変更を機に、これまで培ってきた教育力・研究力を基盤に、さらなる発展を目指していきます。

本学の変わらぬ大きな特色として、ここでは以下の2点を紹介しておきます。

まず、その一つは、本学が総合大学として基本的な学問分野を網羅しつつ、互いの顔が見える適度な規模を保っているということです。これは、教員と学生の距離が近く、親密な人間関係の中で研究教育が行われていることを意味します。学部生約

7,000名、大学院生約2,000名、教職員約1,000名、全学一万人規模の大学です。少人数教育の環境の下、丁寧な研究教育がなされており、研究面においても、研究科の枠を越えた学際最先端研究も盛んに行われています。

もう一つの特徴は、本学では、世界の第一線で戦える、教員の高い研究力が質の高い教育へと結びついているということです。本学の個々の教員の研究力は国際的に見ても高い水準にあることはよく知られています。例えば、学術先端分野において、国際共著論文率やTop10%論文割合は、国内の最有力大学に肩を並べるか、分野によってはそれを上回るにしのぐ、高い水準を維持しています。こうした学術最先端に位置する教員は、研究においても、そして、大学院生の指導でも、学生にとって輝く存在です。学生はそうした教員の姿に憧れて育っていくもので

す。高い水準の研究が、質の高い教育に循環し、学生がやがては高い水準の研究成果を生み出す、つまり、高い研究力と質の高い大学院教育の好循環が機能しているのです。

今後も本学が幅広い教養と深い専門知識を教育することはもちろんですが、本学のより大きな目標は、学生自身の能動的・主体的な学びの姿勢を育て、「本物の考える力」と、誰とでも協働できる能力を身に付け、将来の社会環境・自然環境の変化に対して創造的な貢献ができる人材を世に送り出すことにあります。

いうまでもなく大学は知の拠点です。「学問の力で、東京から世界の未来を拓く」をモットーに掲げ、本学の知のリソースを結集し、学生諸君の本物の学びを全力で支援します。

東京都立大学 学長 上野 淳

# 人文科学研究科

社会行動学専攻 人間科学専攻  
文化基礎論専攻 文化関係論専攻

人文科学研究科は、前身である東京都立大学大学院からの半世紀に及ぶ伝統と学問的蓄積を引き継ぎつつ、さらに新しい分野として、「言語科学」「表象文化論」「日本語教育学」を設置し、また、心理学分野とは別に、博士前期課程に「臨床心理学」分野を設けるなど、時代の変化に即応しながら、人間・文化・社会に関わる極めて広範囲の学問領域をカバーし、充実した教育・研究活動を行っています。「専攻」は、社会行動学、人間科学、文化基礎論、文化関係論の4つにまとめられていますが、学生募集単位はもっと専門に分かれた「分野」または「教室」であり、入学した学生諸君は、従来どおりの専門的な研究を行うことができます。博士前期課程は、9月と2月に入試を行っており、年に2回の受験機会があります(博士後期課程は2月のみ)。

## 社会行動学専攻

入学定員	博士前期課程 / 14名、博士後期課程 / 10名
主な就職先	アイネス、荒川区社会福祉協議会、KISCO、ゲオホールディングス、大和総研、ドン・キホーテ、ヤマハミュージックジャパン、ライク、厚生労働省、インドネシア科学院(LIPI) など



ゼミ風景

現代社会、とりわけ都市のグローバル化と高度情報ネットワーク化という新たな状況の下で、産業、交通、文化の諸領域において、社会構造とその変動を歴史的・理論的に解明するとともに、他文化・社会との比較研究を行い、国際化や少子高齢化に伴うさまざまな社会的課題に対応する政策的研究への期待と要請はますます高まっています。そのような情勢にあって、現場のフィールドワークを中心とする調査研究とそれを裏付ける理論的・歴史的研究の融合・調和は今日急務の課題といえます。本専攻は、それらの課題に学際的に取り組む人材の養成を目標とし、〈社会学分野〉、〈社会人類学分野〉、〈社会福祉学分野〉の3分野において学生を募集します。

### 教員一覧 / 専門分野

<b>社会学教室</b> 栗山 正光 教授 / オープンアクセスや機関リポジトリなど、大学図書館と学術情報流通の新しい体制に関する研究 左古 輝人 教授 / 社会学理論、社会学史 玉野 和志 教授 / 都市社会学、地域社会学 丹野 清人 教授 / 国際労働力移動、移民・エスニシティ、産業社会学 中尾 啓子 教授 / 社会階層論、社会調査法、社会統計法、社会ネットワーク 中川 薫 教授 / 保健医療社会学、福祉社会学 不破 麻紀子 教授 / ジェンダーの比較社会学、家族社会学 宮台 真司 教授 / 社会システム理論、権力理論、宗教理論、青年文化論、消費社会学 山下 祐介 教授 / 地域社会学、リスクコミュニティ研究 和田 清美 教授 / 都市社会学、コミュニティ論、市民参加論 庄司 武史 助教 / 社会学史、社会思想	<b>社会人類学教室</b> 綾部 真雄 教授 / 文化人類学、タイ地域研究、エスニック・セキュリティ論 何 彬 教授 / 民俗学、東アジア研究、漢族研究 石田 慎一郎 准教授 / 社会人類学、法人類学、東アフリカの民族誌 河野 正治 准教授 / 文化人類学、ミクロネシア民族誌、伝統的権威 田沼 幸子 准教授 / 文化人類学、映像人類学、キューバ・スペイン研究 深山 直子 准教授 / 社会人類学、先住民研究、オセアニア研究 澤井 充生 助教 / 社会人類学、中国地域研究、イスラム地域研究	<b>社会福祉学教室</b> 坏 洋一 教授 / 福祉理論、社会政策論 阿部 彰 教授 / 社会保障論、社会政策 杉野 昭博 教授 / 障害ソーシャルワーク、障害学、社会政策論 堀江 孝司 教授 / 社会政策論、福祉国家論 矢嶋 里絵 教授 / 社会保障法、障害者福祉法 和氣 純子 教授 / 高齢者福祉論、ソーシャルワーク論、社会福祉国際比較論 長沼 葉月 准教授 / ソーシャルワーク論、精神保健福祉、家族支援 室田 信一 准教授 / 地域福祉、コミュニティ、アクション・リサーチ、国際比較 安藤 藍 助教 / 児童福祉、家族論、福祉社会学
---	---	---

※ 2021年3月定年退職予定

## TMU #EDUCATION



01

世界と他者を洞察する、自己に公正に振る舞う：哲学・西洋古典学が与える力



02

現代を透徹して生き抜くための〈知力〉

洋の東西を問わず、もちろん現代のわが国でも、民主主義の発展、学問・芸術・社会の繁栄の背景には、いつでも哲学・西洋古典学の深い教養を備えた人々の寄与がありました。今後こうした教養は、社会のモラル・教養・文化を洗練・成熟させる原動力であり続けるはず。特に現代論理哲学は、文系vs.理系といった退屈な壁を超え、数理諸科学、AI、環境・生命倫理など多様な分野で複雑な問題の解決に貢献しつつあります。

通説に惑わされず適切な選択肢を見出す

哲学の学びを通じ、「クリティカルシンキング」を行う力を身につけることが重要です。公正な批判を施しつつ、物事の本質に透徹しようとするこの知的態度は、人がどのような状況に置かれていても、予断や通念に惑わされず、的確な究明を行って適切な選択肢を突き止めること、ひいては、誰もが自由に、創造的に生きることをサポートしてくれる、真に望まれる力です。哲学・西洋古典学は、この能力を組織的・自覚的に訓練し、追究します。

## 人間科学専攻

入学定員	博士前期課程 / 17名、博士後期課程 / 6名
主な就職先	アイネス、MBM、小田急電鉄、鹿島建設、再春館製菓所、NIPPON ACADEMY、ファーストリテイリング、ヘルメチック、ミニストップ、江戸川区役所、大田区子ども家庭支援センター、慶北大学校 など



ゼミ風景

本専攻は人間諸科学を構成する5つの分野からなります。〈心理学分野〉は、実験心理学、認知心理学、発達心理学、社会心理学、計量心理学からなり、人間心理の諸側面への研究・教育を行います。博士前期課程では心理学分野は、臨床心理分野と分けて募集します。博士後期課程では、心理学分野は一つの分野として募集をします。〈臨床心理学分野〉は、博士前期課程における高度専門家養成コースとして、心理臨床の実践的専門性の習得とともに研究者育成も目指します。〈教育学分野〉は、教育政策・制度、学校教育、社会教育・生涯学習、就学前教育、特別支援教育、多文化教育等、人間形成に関わる理論的及び実践的研究・教育を行います。〈言語科学分野〉は自然科学としての言語学、生成文法を軸としたことばの研究を通してヒトの生得的な言語機能と脳科学的基盤を明らかにする研究・教育を行います。〈日本語教育学分野〉は、母語および第二言語・外国語としての日本語学や言語教授法、言語接触と言語習得、遠隔教育やマルチメディア教材の開発に関する研究・教育を行っています。

### 教員一覧 / 専門分野

<b>心理学・臨床心理学教室</b> 下川 昭夫 教授 / 臨床心理学、コミュニティ臨床からの児童生徒への支援、認知症高齢者の心理 沼崎 誠 教授 / 実験社会心理学、社会的自己、偏見とステレオタイプの研究 平井 洋子 教授 / 心理学的測定論、心理測定の方法論や計量的手法 村松 健司 教授 / 臨床心理学(学生相談・児童福祉施設における心理支援) 山際 勇一郎 教授 / 社会心理学、日本の人間関係の実証的研究 渡部 みさ 教授 / 臨床心理学、思春期・青年期臨床 石原 正規 准教授 / 実験心理学、人間の知覚・運動系情報処理メカニズムの機能的特徴を探る研究 井上 和哉 准教授 / 認知心理学、感情心理学、注意・記憶・意思決定 勝又 陽太郎 准教授 / 臨床心理学、地域精神保健、自殺予防 酒井 厚 准教授 / 発達心理学、発達精神病理学 駒屋 雄高 准教授 / 臨床心理学、コミュニティ支援、ロールシャッハ法 天野 陽一 助教 / 社会心理学、発達心理学、親密な対人関係と利他行動	<b>教育学教室</b> 荒井 文昭 教授 / 教育行政学、教育政治研究 野元 弘幸 教授 / 社会教育、生涯学習、多文化教育 河合 隆平 准教授 / 障害者教育学・教育史 金 俞貞 准教授 / 社会教育、生涯学習、日韓比較研究 杉田 真衣 准教授 / ジェンダー／セクシュアリティ教育、青年論 竹原 幸太 准教授 / 教育哲学、教育の修徳的正義論、矯正教育 田中 浩司 准教授 / 発達心理学、保育・幼児教育、遊びの発達と指導 ハスゲレル 助教 / 多文化・多言語教育、中国少数民族教育(モンゴル民族) 松下 丈宏 助教 / 教育行政学	<b>日本語教育学教室</b> 浅川 哲也 教授 / 日本語学、日本語史 西郡 仁朗 教授 / 日本語教育学、教育学 長谷川 守寿 教授 / 日本語教育学、現代日本語文法の計量的研究 LONG Daniel 教授 / 日本語教育学、言語接触論、社会言語学の日本語教育への応用 奥野 由紀子 准教授 / 日本語教育学、第二言語習得研究 神田 明延 准教授 / ネットワークやマルチメディアを利用した言語教育研究 劉 永亮 助教 / 日本語-中国語-モンゴル語対照研究
---	--	---

※ 2021年3月定年退職予定

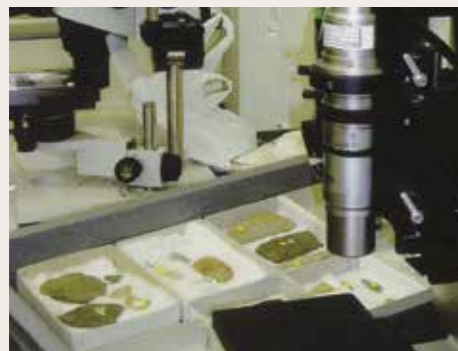


# 人文科学研究科

社会行動学専攻 人間科学専攻  
文化基礎論専攻 文化関係論専攻

## 文化基礎論専攻

**入学定員** 博士前期課程 / 13名、博士後期課程 / 5名  
**主な就職先** ステップ、西東京バス など



出土遺物を分析

本専攻には哲学・西洋古典学、歴史学・考古学、表象文化論の3つの分野が含まれています。〈哲学・西洋古典学分野〉は、哲学と西洋古典学の2つの領域からなり、古代ギリシャから現代英米までの西欧哲学思想の各時代をカバーし、言語や科学といった観点からの世界の構造の理論的考察、価値や規範についての倫理的考察、また数学とも関連の深い論理哲学などの研究を行っています。〈歴史学・考古学分野〉は、日本史・東洋史・西洋史・考古学が一体となって、歴史的な思考力を持ち幅広い教養を身につけた職業人・研究者の養成を目指しています。〈表象文化論分野〉はイメージ論、視覚文化論、パフォーマンス・アーツ研究、音楽文化論、伝統芸能研究、言語芸術論などに取り組む芸術表象研究と、文化的事象を制度・権力・身体・メディアといった視座から検討する文化表象研究を軸に、芸術・文化の多様なテーマを幅広い観点から扱っています。

## 文化関係論専攻

**入学定員** 博士前期課程 / 5名、博士後期課程 / 4名  
**主な就職先** 東京都庁 など



本専攻には、以下の2分野5専攻が含まれています。学生の募集は「教室」単位で行います。

日本・中国文化論分野〈日本文学教室〉は、日本語学、古代・近世・近現代の日本文学を主要な研究テーマとしています。〈中国文学教室〉は、古典から近現代までの中国語学、中国文学、中国の地域文化史、映画、民俗、サブカルチャーなどを研究対象とし、中国と日本など東アジア諸地域の文化交流史も視野に取り込んでいます。

欧米文化論分野〈英文学教室〉は、イギリスとアメリカをはじめアフリカなどの英語圏をも教育研究の射程に入れ、これらの地域の歴史と言語文化に関する幅広い知識の教授を行います。〈ドイツ文学教室〉は、ドイツ・オーストリア・スイスなどのドイツ語圏の言語文化、メディア論を含む思想、芸術を主な研究対象としています。〈フランス文学教室〉は、中世から現代までのフランス語学、フランス語統語論、近世から近代までのフランス文学と思想、フランス現代思想を主要な研究対象としています。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 哲学・西洋古典学教室

石川 求 教授 / ドイツ近現代哲学  
岡本 賢吾 教授 / 論理学・数学の哲学、情報の哲学  
栗原 裕次 教授 / 古代ギリシャ哲学  
小池 登 教授 / 西洋古典学、特にギリシャ語学・文学  
松阪 陽一 教授 / 言語哲学  
木田 直人 准教授 / フランス哲学  
井原 健一郎 助教 / 西洋近世哲学

#### 歴史学・考古学教室

鎌倉 佐保 教授 / 日本中世史  
國 雄行 教授 / 日本近代史  
谷口 央 教授 / 日本近世史  
中嶋 毅 教授 / ロシア近現代史、在外ロシア史  
前田 弘毅 教授 / 中東・イスラーム史、ユーラシア研究  
山田 康弘 教授 / 先史学(縄文・弥生時代の社会)  
赤羽目 匡由 准教授 / 朝鮮古代史、東洋史  
出穂 雅実 准教授 / 考古学(ユーラシア上部旧石器研究)  
大貫 俊夫 准教授 / 西洋中世史  
高橋 亮介 准教授 / 古代ローマ史  
福士 由紀 准教授 / 中国近現代史  
岩瀬 彬 助教 / 考古学

#### 表象文化論教室

赤塚 若樹 教授 / 映像文化論、視覚文化論、比較文学  
亀澤 美由紀 教授 / ジェンダー論、英語圏文学・文化  
三宅 昭良 教授 / 演劇・身体論、モダニズム文学  
角井 誠 准教授 / 映画研究・映画理論  
中嶋 泉 准教授 / 美術史・イメージ論  
福田 貴成 准教授 / 聴覚文化論・音楽文化論  
古永 真一 准教授 / 現代思想、精神分析、イメージ / テクスト研究  
高本 教之 助教 / 近代ドイツ文学、日本古典芸能、演劇文化

### 教員一覧 / 専門分野

#### 日本文学教室

猪股 ときわ 教授 / 日本古代の神話、歌、和歌、物語  
大島 資生 教授 / 日本語学  
大杉 重男 教授 / 日本近代文学  
近藤 瑞木 教授 / 日本近世文学  
高桑 枝実子 准教授 / 日本古代文学、万葉集  
服部 剣仁矢 助教 / 日本古代文学

#### ドイツ文学教室

園田 みどり 教授 / 近現代ドイツ文学  
福岡 麻子 准教授 / エリネクをはじめとする近現代ドイツ文学  
古屋 裕一 准教授 / ドイツ思想研究  
SCHLÖNDORFF 19世紀以降のドイツ文学、特に黙示的文学  
大須賀 沙織 准教授 / 19世紀フランス文学  
犬飼 彩乃 助教 / 現代ドイツ文学、翻訳論

#### 中国文学教室

大久保 明男 教授 / 中国近現代文学、特に「満洲国」時期の文学史・文化史  
佐々木 睦 教授 / 中国幻想文学、古典小説、児童文学、図像学  
荒木 典子 准教授 / 中国語法史・語彙史  
飯田 真紀 准教授 / 中国語学(広東語研究)  
佐藤 賢 准教授 / 中国近現代文学、映画研究  
代 珂 助教 / 中国近代メディア文化研究、植民地メディア研究

#### フランス文学教室

西山 雄二 教授 / 現代フランス文学・思想  
藤原 真実 教授 / 18世紀フランス文学  
大須賀 沙織 准教授 / 19世紀フランス文学  
GROISARD Jocelyn 准教授 / 西洋古典学、古代哲学史  
須藤 健太郎 助教 / 映画史、映画論

#### 英文学教室

高岸 冬詩 教授 / 20世紀イギリス・アイルランド詩  
中村 英男 教授 / 19世紀イギリス小説  
吉田 朋正 教授 / 批評史、アメリカ文学・思潮  
越 朋彦 准教授 / 17世紀英文学  
辻 秀雄 准教授 / アメリカ文学(現代散文)、モダニズム  
安井マイケル 准教授 / 日米比較文学、14世紀イギリス文学、20世紀アメリカ文学  
佐久間 千尋 助教 / 19世紀イギリス小説  
関口 洋平 助教 / アメリカ文学・アメリカ研究

# 法学政治学研究科

法学政治学専攻  
[ > 法律学分野 > 政治学分野 ]  
法曹養成専攻(法科大学院)

法律学・政治学の領域における高度な研究を基盤に、国や東京都をはじめとする公共団体が抱える課題に具体的提言を提示できる21世紀の法学、政治学の核を目指します。これにより、国際水準に見合った研究者や有能な公務員の育成に取り組むとともに、研究成果を高度専門職業人養成プログラムにも反映させていきます。また、双方向の教育を重視し、独創的な研究課題の開発、研究領域相互の学問的交流や最先端の研究情報の共有化、研究手法やプレゼンテーション能力の育成等を進めます。

## 法学政治学専攻

入学定員 博士前期課程 / 6名、博士後期課程 / 4名

### 法律学分野 / 政治学分野

<http://www.law.tmu.ac.jp/law.html>



政治学総合演習

法学政治学専攻は、法律学分野と政治学分野に分かれ、入試科目や取得できる学位が異なります。共通するのは、優秀なスタッフと恵まれた学習環境です。分野ごとに院生研究室があり、全員に個室が与えられます。教師1人に参加者が平均2~4名の徹底した少人数の演習のうえ、月に一度は研究会形式の総合演習が行われます。こうして鍛えられた学生は、博士後期課程に進むと紀要『法学会雑誌』に研究成果を発表する機会が与えられます。いずれの分野でも学界有数の優れた研究者や有能な職業人・公務員を輩出しています。各分野についてももっとお知りになりたい方は、パンフレットやホームページなどをご覧ください。

#### 教員一覧 / 専門分野

##### 法学政治学専攻

伊藤 正次 教授 / 行政学、都市行政論	谷口 功一 教授 / 法哲学	佐藤 信 准教授 / 現代日本政治
梅川 健 教授 / 比較政治、現代アメリカ政治	陳 肇斌 教授 / 日本政治外交史、東アジア政治	田尾 亮介 准教授 / 財政法
大澤 麦 教授 / 西洋政治思想史、政治哲学	野上 和裕 教授 / 西洋政治史	堤 健智 准教授 / 民法
大杉 寛 教授 / 行政学、都市行政論	長谷川 貴陽史 教授 / 法社会学	新倉 圭一郎 准教授 / 国際法
桶倉 典哲 教授 / 民法(財産法)	星 周一郎 教授 / 刑法、刑事訴訟法	堀田 周吾 准教授 / 刑事訴訟法
尾崎 悠一 教授 / 商法	山神 清和 教授 / 知的財産法	山羽 祥貴 准教授 / 憲法
木村 草太 教授 / 憲法	加藤 葉帆 准教授 / 国際私法	谷井 悟司 助教 / 刑法
河野 有理 教授 / 日本政治思想史	門脇 雄貴 准教授 / 行政法	前田 貴洋 助教 / 行政学
篠田 昌志 教授 / 民法	顧 丹丹 准教授 / 商法	
詫摩 佳代 教授 / 国際政治	作内 良平 准教授 / 民法	

## TMU #EDUCATION



### 少人数教育と特色あるカリキュラム

#### 01 全教員一丸での指導

法学政治学専攻では、分野に所属する全大学院生と専任教員が参加して行われる「総合演習(法律学総合演習・政治学総合演習)」が必修科目とされており、全教員が一丸となった指導を行います。大学院生は、自らの学位論文の構想について報告するとともに、教員による最先端の研究報告の報告を聴くことができ、総合演習を通じて、研究姿勢や研究手法、プレゼンテーションのあり方を徹底的に学ぶと同時に幅広い視野が養われます。

#### 02 真の少人数教育の実践

法科大学院では、少人数による双方向・多方向型の講義の徹底とオフィスアワーの実施によりマンツーマンともいえるような学生一人ひとりを大切にしている教育を実施しています。毎月行われるFD会議において、個々の学生の履修状況の把握や、教員間での情報共有を図り、学生の理解度に応じた指導を心がけるなど「コミュニケーションと信頼関係」を重視した心の通った真の少人数教育を実践し、学修成果へとつなげています。

## 法曹養成専攻(法科大学院)

<http://www.law.tmu.ac.jp/law/index.html>

入学定員 専門職学位課程 / 40名(2年履修課程 / 30名程度、3年履修課程 / 10名程度)



模擬法廷

本専攻は、東京をはじめとする大都市の抱える複雑な問題に対して、それを解決する能力を有する法律家の養成を目指します。研究者教員による理論的な授業だけでなく、裁判官、検察官、弁護士などの実務家による授業を提供し、理論と実務をバランスよく学ぶことができます。少人数によるきめの細かい授業を行い、自習室では学生一人ひとりに固定席を提供し、学生が主体的に勉強できる環境を整えています。法学既修者向けの「2年履修課程」と法学未修者向けの「3年履修課程」の2つのカリキュラムを設定しています。

成績優秀者に対する奨学金や授業料減免などの経済的支援も整備しています。詳しくは法科大学院パンフレットや、ホームページなどをご参照ください。

#### 教員一覧 / 専門分野

##### 法曹養成専攻

木村 光江 教授 / 刑法	山田 俊雄 教授 / 民事実務	山科 麻衣 准教授 / 刑法
伊永 大輔 教授 / 経済法	我妻 学 教授 / 民事訴訟法、民事手続法	鈴木 崇之 助教 / 憲法
富井 幸雄 教授 / 公法学	天野 晋介 准教授 / 労働法	善塔 章夫 助教 / 民法
峰 ひろみ 教授 / 刑事実務	金崎 剛志 准教授 / 行政法	山田 峻悠 助教 / 刑事訴訟法
矢崎 淳司 教授 / 商法	手賀 寛 准教授 / 民事訴訟法	

※ 2021年3月定年退職予定

# 経営学研究科

経営学専攻  
 [ > 経営学プログラム > 経済学プログラム > ファイナンスプログラム ]

首都東京には、わが国を支える主要な大小の企業が集積し、新しい企業を創業していく潜在力があります。それを現実の活力に転換するためには、マネジメントのあり方を探求する第一線の研究者と、組織を動かす高度な能力を有する経営管理者・起業家の養成が欠かせません。また、経済のグローバル化やインターネットの発達、環境への配慮などにより経済活動の仕組みも日々変化の中で、ビッグデータの蓄積とともに高度な経済学やファイナンスの専門的知識を用いた経済分析や資産運用・資金調達・金融リスク管理が求められています。

経営学研究科では、これらの社会的要請に応えるために高度な研究水準を維持し、その成果を学術的もしくは実践的な教育に反映させていきます。特に、博士前期課程には経営学・経済学・ファイナンスの3つのプログラムを設置します。博士後期課程では、これらの分野のさらに高度で最先端の研究に取り組む能力を養成します。

## 経営学専攻

入学定員 博士前期課程／50名、博士後期課程／5名  
 主な就職先 Nexperia B.V.、スパンション・イノベイツ、日本通運 など

### 経営学プログラム Business Administration Program



講義風景

博士前期課程の経営学プログラム(MBA)では、戦略的な思考能力と経営管理に関する高度な知識を有し国際的に活躍できる高度専門職業人と、経営学の諸理論を修得し新しい経営学を切り開いていける研究者を養成します。大学の学部で経営学を学ばなかった理工学系出身の社会人学生を積極的に受け入れ、そのキャリア開発と新産業・新事業の育成に貢献します。組織や戦略、マーケティング、会計学、経営科学など経営学に関する幅広い科目を提供します。いずれも少人数の授業で効果的に学習ができます。さらに演習や研究指導を通じて、専門領域についての知識と分析力、研究能力を培い、修士論文や課題研究論文の執筆を丁寧に指導します。授業は主に丸の内サテライトキャンパスで平日の夜間と土曜日に開講されます。

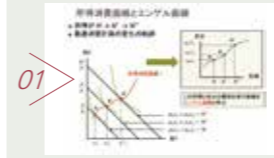
### 経済学プログラム Economics Program



博士前期課程の経済学プログラム(MEc)では、経済学に関する専門的な知識を有し、学術的あるいは実務的な課題について幅広い視野を持って研究を遂行できる能力を持った研究者および実務家を養成します。官公庁・シンクタンク・企業等において、経済活動の分析、経済政策の立案、企業の効率的な活動の提言を行うための知識・手法および課題への取り組み方を修得する他、経済学の諸理論を応用し、経済システムや経済社会の事象をグローバルな視点で歴史的な経緯も含めて資料を分析し、高度な歴史的知見の提供や問題解決のための政策提言を行う能力を身につけさせることを目標とします。

コア科目と呼ばれる、マクロ経済学・ミクロ経済学・計量経済学の高度な基幹理論の学修には数学・統計学が不可欠ですので、大学の学部で経営学・経済学を学ばなかった理工学系出身であっても経済学に関心を抱く社会人学生を積極的に受け入れます。授業は丸の内サテライトキャンパスで平日の夜間と土曜日に開講されます。

## TMU #EDUCATION



01

経営学、経済学の理論を本質的に理解し実社会での活用を追求



02

01 実社会と連動する高度な専門教育

経営学研究科は、「経営学」「経済学」「ファイナンス」という3つのプログラムで構成されます。いずれも実社会と密接につながる研究活動を通して、経営学や経済学の研究者、および各分野に精通した実務家の養成を目指しています。特に実務経験を持つ社会人が多く学ぶ経営学プログラムや、東京都国際金融センター構想における人材育成を担うファイナンスプログラムでは、ビジネス上のニーズを直接反映した教育を展開しています。

02 数理を重視し、理論の本質を理解する

東京都立大学における経営学、経済学は、数学的手法の重視を伝統としています。経済学での分析はもちろん、経営学でもマーケティングをサイエンスとして扱い、ビッグデータの活用など情報科学の数理を取り入れ、理論の本質と最先端をともに理解できるようにします。そのため経済理論を学ぶゼミでも、理論を使って日常の題材からモデルを作るなど、実社会での遂行を想定した研究を行います。

### ファイナンスプログラム Finance Program



博士前期課程のファイナンスプログラム(MF)では、国際的な金融センターで活躍できる、ファンドマネージャー、クオンツアナリスト、リスク管理者、トレーダー、金融商品開発者、金融政策立案者、財務アナリスト、財務コンサルタント、および事業会社の財務責任者として活躍する金融のプロフェッショナルを養成します。

「投資運用」「デリバティブ」「金融リスク」「コーポファイナンス」をコア分野として、関連する「数学」「数値計算」「統計学・データサイエンス」「経済学」「財務戦略」「経済戦略」分野の科目を効率的に配置したカリキュラムにより、ファイナンス・金融工学と企業経営の知識を体系的に学習します。また、ファイナンス演習(ゼミ)、ファイナンス考究(ケーススタディによる実践的学習)、修士論文の執筆は必修です。各分野の理論に精通した教員、実務経験を有する教員が時間をかけて指導できる体制を構築しています。また、海外からも研究者を招聘して、英語による講義を提供するなど密度の濃い教育を展開します。授業は前期と後期の二期制で、主に丸の内サテライトキャンパスで平日の夜間と土曜日に開講されます。

### 博士後期課程 Doctoral Program

経営学・経済学・ファイナンスの分野において、さらに高度で最先端の研究に取り組む研究者を養成するために博士後期課程を設置しています。

#### 教員一覧／専門分野

経営学研究科

浅野 敬志 教授 / 財務会計論、経営分析	細海 昌一郎 教授 / 管理会計論、知的資本の実証的研究	高橋 勲徳 准教授 / ビジネスイノベーション
足立 高德 教授 / 数理ファイナンス、金融リスク測定論	松田 千恵子 教授 / 経営・財務戦略、資本市場論	高見 典和 准教授 / 経済思想史、経済学説史
飯星 博邦 教授 / 計量経済学、景気循環と金融政策の実証研究	水越 康介 教授 / マーケティング	竹内 祐介 准教授 / アジア経済史
飯村 卓也 教授 / ミクロ経済学	宮本 弘暁 教授 / 労働経済学	竹原 浩太 准教授 / オプションプライシング、金融数値解法
岩間 俊彦 教授 / イギリス社会史、経済史、都市史、企業者史	村田 啓子 教授 / 日本経済論	中山 厚穂 准教授 / マーケティング・サイエンス
内山 朋規 教授 / 資産価格理論、投資運用理論	室田 一雄 教授 / 数理工学、オペレーションズ・リサーチ、最適化	西村 孝史 准教授 / 人的資源管理論、組織行動論
桑田 耕太郎 教授 / 経営学、組織論、企業組織の戦略的変革	室町 幸雄 教授 / 金融リスク管理	松尾 隆 准教授 / 企業のオペレーションと戦略との関係
芝田 隆志 教授 / 企業経済学、コーポレートファイナンス	森 治憲 教授 / 統計学	松岡 多利思 准教授 / マクロ経済学、金融論
高尾 義明 教授 / 経営組織論	山下 英明 教授 / オペレーションズ・リサーチ、待ち行列理論とその応用、経営工学	森口 聡子 准教授 / 数理計画法、組合せ最適化、オペレーションズ・リサーチ
竹田 陽子 教授 / イノベーション戦略	脇田 成 教授 / マクロ経済学	森本 脩平 准教授 / ミクロ経済学
田中 敬一 教授 / 数理ファイナンス、金利および信用リスク派生商品の価格付け	渡辺 隆裕 教授 / ゲーム理論、ミクロ経済学	八木 恭子 准教授 / 金融工学、コーポレートファイナンス、コンピュータシミュレーション
長瀬 勝彦 教授 / 意思決定論、実験経営学	荒戸 寛樹 准教授 / マクロ経済学	我妻 靖 助教 / ミクロ経済学、ゲーム理論
野口 昌良 教授 / 財務会計	井澤 龍 准教授 / 西洋経済史	門傳 藍香 助教 / マーケティング、経営戦略論
	小方 浩明 准教授 / 統計学	
	小林 延人 准教授 / 日本経済史	

※ 2021年3月定年退職予定

# 理学研究科

数理学専攻  
 物理学専攻  
 化学専攻  
 生命科学専攻 [ > 生命科学領域 > 応用生命科学領域 ]

理学研究科は、数理学、物理学、化学、生命科学という基礎科学分野の4つの専攻からなり、宇宙物理学、生命情報、超伝導理工学の3つの研究センターが所属しています。本研究科は、体系的・総合的な基礎知識の上に立ち、自然科学に関するさまざまな問題を発見し解決できる力を高めるための、特色ある教育プログラムを実践しています。特に、分野を超え、応用にもつながるような教育を積極的に提供し、それを通じて広い視野をもつ独創的な研究者や高度な専門家を育成することを目指しています。連携大学院の制度を活用して、国内の他の研究機関の研究者とも連携しながら、大学院の教育と最先端の研究に取り組んでいます。理学研究科の研究は世界のトップレベルにあり、基礎的・基盤的研究をはじめ、その成果をもとに新たな応用展開を図ろうとする研究や、国が支援する大きなプロジェクト研究も数多く進めています。

## 数理学専攻

http://www.se.tmu.ac.jp/mis/

**入学定員** 博士前期課程 / 25名、博士後期課程 / 8名  
**主な就職先** 日立システムズ、大日本印刷、ソフトバンク、エヌ・ティ・ティ・データ (NTTデータ)、NTTソフトウェア (NTTテクノクロス)、東日本電信電話 (NTT東日本)、東日本旅客鉄道 (JR東日本)、みずほ情報総研、新日鉄住金ソリューションズ、ドコモ・システムズ、教員 (東京都、栃木県、富山県) など  
※本専攻の前身となる「数理情報科学専攻」の修了生実績



全国でも有数の蔵書数を誇る数理学図書室

数理学専攻は、代数学・幾何学・解析学・応用数理の各分野における体系的理論の習得と、課題解決型テーマへの主体的な取り組みを通じて、現代数理学の最先端へ誘うことを目的としています。上記の4分野が有機的に連携する教育・研究体制のもとで、さまざまな数学的体験と思考訓練を積み重ねることにより、独創的な発想力を持つ研究者や、専門知識を備えた教育者など、柔軟性に富んだ人材を広く社会に輩出していくことを目指しています。また、自然科学の礎としての数学を意識し、本学大学院の他の専攻や外部の研究機関との交流を通じて、現代社会における課題の解決に貢献すると同時に、他分野の発想も理解することができる視野の広い人材の育成にも取り組んでいます。

### 教員一覧 / 専門分野

数理学専攻

内山 成憲 教授 / 暗号理論、計算数論	吉 富 和志 教授 / 放物型偏微分方程式	高津 飛鳥 准教授 / 微分幾何学、幾何解析
倉田 和浩 教授 / 偏微分方程式、非線形変分問題	赤穂 まなぶ 准教授 / フレアー理論・シンプレクティック幾何学	久本 智之 准教授 / 複素解析幾何
黒田 茂 教授 / アフィン代数幾何学、多項式環論	石谷 謙介 准教授 / 確率論、数理ファイナンス	深谷 友宏 准教授 / 幾何学的群論・粗幾何学
酒井 高司 教授 / 微分幾何学、部分多様体論	上原 北斗 准教授 / 代数幾何学、高次元代数多様体の分類理論、接続層の導来圏	村上 弘 准教授 / 数値計算、数式処理、並列計算
相馬 輝彦 教授 / トポロジーと力学系	内田 幸寛 准教授 / 数論アルゴリズム、数論幾何学、暗号理論	横山 俊一 准教授 / 数式処理、計算数論、暗号理論
高桑 昇一郎 教授 / 大域解析学、偏微分方程式論、多様体上の微分方程式の研究	小林 正典 准教授 / 代数幾何学、Calabi-Yau多様体・特異点とミラー対称性に関わる数理学	川崎 健 助教 / 可換代数
津村 博文 教授 / 解析数論、ゼータ関数	鈴木 登志雄 准教授 / 計算理論、数理論理学	平田 雅樹 助教 / 力学系理論 (エルゴード理論)、確率論
徳永 浩雄 教授 / 代数幾何学、複素多様体論		
服部 久美子 教授 / フラクタル上の確率過程論		
横田 佳之 教授 / 位相幾何学		

※ 2021年3月定年退職予定

## TMU #EDUCATION



専門分野の深化と異分野との連携により、新しい研究領域の開拓に挑む

- 01 主体的な研究ならびに異分野との協働を可能にする教育
- 02 未知の解明に挑む研究姿勢を養う

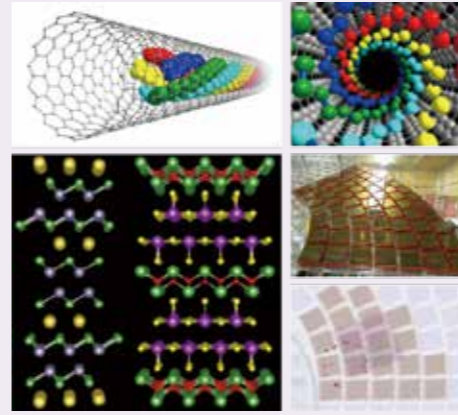
理学研究科では、数理学、物理学、化学、生命科学の各分野について体系的かつ総合的に理解を深めるとともに、学生が主体的に研究することを通して力をつける教育を実践しています。その特徴は、自由な発想から独創的な自然科学の研究に取り組む過程で、問題発見力・解決力を養成しつつ、広い視野が獲得できることにあります。「大学院分野横断プログラム」などを通して、工学や医学など隣接するより実践的な異分野と協働する能力も身につけられます。

本研究科で行われる研究は、自然科学における未知の課題を対象にしたものです。例えば生命科学専攻での野生植物に関する研究は、絶海の島である小笠原諸島でのフィールドワークと最先端機器を用いたDNA解析を組み合わせることで植物の多様性を生み出した進化の謎に挑んでいます。これを解き明かすことは、野生植物に対する科学的理解を深めるだけでなく、野生生物や自然環境の適切な保全にも貢献します。このような広がりも含めた専門領域の可能性を追究できる研究者や専門家を育成します。

## 物理学専攻

http://www.phys.se.tmu.ac.jp/

**入学定員** 博士前期課程 / 35名、博士後期課程 / 10名  
**主な就職先** キヤノン、ソニー、パナソニック、ローム、エヌ・ティ・ティ・データ (NTTデータ)、横浜清風高等学校、警視庁、野村総合研究所、三菱重工業、村田製作所 など



物理学が対象とする様々な系

物理学は自然の根源を追究し、そこにひそむ法則を探るとともに、自然界や物質から得られた知識を応用する学問です。本専攻では、「素核宇宙理論」、「物性基礎理論」、「素粒子・原子・宇宙実験」、「物性物理」の4つの研究グループ体制をとり、超ミクロな素粒子から日常的なサイズの物質系、そして超マクロな宇宙までの広範な系を対象として、理論・実験の両面から研究教育を推進しています。各研究グループは、グループ全体の協力体制を強化しつつ、テーマごとに研究室を構成し、研究教育を実施しています。さらに、理学研究科の他専攻はもちろん、他研究科の専攻や学域、外部の研究機関とも密接に協力しながら、活発な研究を展開していることも特長です。

### 教員一覧 / 専門分野

物理学専攻

青木 勇二 教授 / トポロジカル電子物性と強相関電子系の超伝導・量子磁性の実験研究	柳 和宏 教授 / ナノ構造体の物性、光物性	KETOV Serguei 准教授 / 超弦理論、量子重力理論、素粒子の基礎理論
角野 秀一 教授 / 高エネルギー物理学、加速器を用いた素粒子実験やニュートリノ実験	荒畑 恵美子 准教授 / 冷却原子気体の超流動現象および異方的超伝導現象に関する理論的研究	飯田 進平 助教 / 原子分子物理学、ビーム物理学
栗田 玲 教授 / ソフトマター物理、非平衡物理	石崎 欣尚 准教授 / X線天文学、宇宙の観測的研究および、X線天文衛星搭載用の極低温検出器の開発	大塚 博巳 助教 / 物性基礎論、統計力学、計算物理学
首藤 啓 教授 / 非線形力学、古典および量子カオス	江副 祐一郎 准教授 / 高エネルギー宇宙物理、星・惑星などの観測的研究および装置開発	北澤 敬章 助教 / 素粒子物理学理論、特に弦理論に基づく素粒子模型
田沼 肇 教授 / 原子分子物理学、meVからMeVまでのイオン衝突素過程	門脇 広明 准教授 / 量子磁性物理、中性子散乱実験	汲田 哲郎 助教 / 素粒子実験物理学、ビーム物理学
藤田 裕 教授 / 高エネルギー宇宙物理、銀河・銀河団の形成と進化に関する理論的研究	服部 一匡 准教授 / 凝縮系理論、強相関電子系、臨界現象	後藤 陽介 助教 / 新機能性物質の開発と物性研究
堀田 貴嗣 教授 / 強相関電子系の磁性と超伝導の理論	兵藤 哲雄 准教授 / ハドロン物理学、エキゾチックハドロン、共鳴状態の理論	佐々木 伸 助教 / 宇宙物理学、宇宙論、銀河間物質
松田 達磨 教授 / 強相関電子系およびトポロジカル物質等の物質開発と物性研究	水口 佳一 准教授 / 超伝導体や機能性材料の探索と物性研究	田中 篤司 助教 / 非線形物理、量子論
森 弘之 教授 / 冷却原子系および低次元量子系の理論	宮田 耕充 准教授 / 原子層物質 (二次元結晶) の開発、光・電子物性の研究	谷 茉莉 助教 / ソフトマター物理学、マクロな自然現象の物理学
安田 修 教授 / 素粒子論・標準模型を超える物理、ニュートリノの物理		中西 勇介 助教 / 100万分の1スケールの極微小材料の探索と物性研究
		東中 隆二 助教 / 強相関電子系の低温物性及び新奇物質探索
		蓬田 陽平 助教 / ナノ物質の物性、物質科学

# 理学研究科

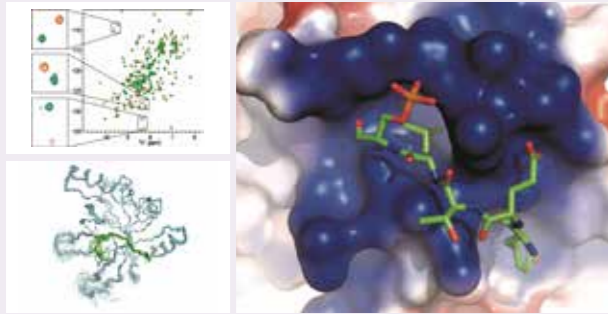
数理科学専攻  
物理学専攻  
化学専攻  
生命科学専攻 [ > 生命科学領域 > 応用生命科学領域 ]

## 化学専攻

http://www.se.tmu.ac.jp/chem/

**入学定員** 博士前期課程 / 35名、博士後期課程 / 9名  
**主な就職先** ライオン、三井金属鉱業、デンカ生研、三菱ケミカル、関東化学、住友ゴム工業、コニカミノルタ、ペーパークラフト、凸版印刷、東芝テック、YKK AP、経済産業省 など

※本専攻の前身となる「分子物質化学専攻」の修了生実績



遺伝子を制御するタンパク質の分子構造を、最新の核磁気共鳴分光法で解析



ゼミの様子

実験の様子

化学とは、分子構造の変換を利用して新たな物質を創成し、その物質の構造、性質、反応性を探究することを目的とした、自然科学の中核を成すともいえる学問です。本専攻は分子物質化学専攻から名称変更し、化学の発展に寄与するという目的を引き継ぎました。一方、現代化学の応用範囲は化学材料や電子デバイスの開発のみならず、宇宙、地球環境、生命、医学・薬学など多様な分野に幅広くわたっています。本専攻では無機・分析化学系、有機・生物化学系、物理化学系の3つの研究分野を設定し、幅広い分野で先端的な研究活動を行っています。また大学院においては、深い専門性に立脚して科学の最先端にある高度な知識を身につけ、同時に、専門を超えた幅広い総合的な判断能力を持つ化学研究者や技術者を育成します。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 化学専攻

- |   |   |   |
|---|---|---|
| 伊藤 隆 教授 / NMR構造生物化学(生体高分子のNMRについての方法的な研究)           | 稲垣 昭子 准教授 / 有機金属化学、触媒化学、光化学(高機能な有機金属触媒の開発)          | 中谷 直輝 准教授 / 量子化学(遷移金属錯体の物性・反応の理論計算)     |
| 歸家 令果 教授 / 反応物理化学                                   | 大浦 泰嗣 准教授 / 放射化学、宇宙化学                               | 西長 亨 准教授 / 構造有機化学(新規機能性π電子系の設計・合成・物性評価) |
| 菊地 耕一 教授 / 物理化学、物性物質化学                              | 久富木 志郎 准教授 / 無機材料化学(放射化学的手法を用いた機能性ガラスセラミックスの開発と評価)  | 三島 正規 准教授 / 構造生物化学(蛋白質の高次構造と機能についての研究)  |
| 清水 敏夫 教授 / 有機合成化学、有機典型元素化学(新規な高周期典型元素化合物の合成と構造)     | 好村 滋行 准教授 / バイオ・ソフトマターの非平衡物理化学                      | 秋山 和彦 助教 / 核・放射化学                       |
| 杉浦 健一 教授 / 錯体化学                                     | 兒玉 健 准教授 / 物理化学                                     | 阿部 拓也 助教 / 分子生物学                        |
| 竹川 暢之 教授 / 大気化学(エアロソル粒子の生成過程)                       | 佐藤 総一 准教授 / 有機典型元素化学、高機能材料化学(典型元素を礎にした新規化学種の創製と機能化) | 阿部 穰里 助教 / 理論化学(相対論的量子化学の開発と応用)         |
| 野村 琴広 教授 / 有機金属化学、合成化学、触媒化学(高性能分子触媒による環境調和型の精密合成反応) | 田岡 万悟 准教授 / 生化学(タンパク質とリボ核酸の高感度分析法の研究)               | 池谷 鉄兵 助教 / 構造生物化学、生物物理化学                |
| 波田 雅彦 教授 / 量子化学                                     |   | 芝本 幸平 助教 / 分析化学・環境化学分野                  |
| 廣田 耕志 教授 / 生物化学(染色体機能の研究)                           |   | 白井 直樹 助教 / 宇宙・地球化学、分析化学                 |
| 山添 誠司 教授 / 無機化学、触媒化学、クラスター化学                        |   | 平林 一徳 助教 / 有機化学、有機金属化学                  |
|   |   | 松本 淳 助教 / 物理化学、原子分子物理学                  |
|   |   | 三澤 健太郎 助教 / 大気化学、分子分光学                  |

## 生命科学専攻

http://www.biol.se.tmu.ac.jp/

**入学定員** 博士前期課程 / 40名、博士後期課程 / 16名  
**主な就職先** テルモ、中外製薬、シミック、サカタのタネ、クミアイ化学工業、日本アイ・ピー・エム(日本IBM)、NECソリューションイノベータ、日立システムズ、野村総合研究所、マイナビ、公務員、中学・高校教員 など

### 生命科学領域 / 応用生命科学領域 Section of Biology / Section of Biomedicine and Biotechnology



ニワトリの胚

東京都立大学生命科学専攻の最大の特長は、生物学・生命科学の多様な分野の研究を行っている教員がそろっていること、すなわち、教員の多様性が非常に高いことです。遺伝子、細胞(遺伝学、細胞学、生理学、生化学等)から、集団、種、生態系(生態学、系統分類学、進化生物学等)まで様々なレベルの、そして材料も微生物から、高等動物、高等植物まで、様々な生物を用いて研究を行っている教員が本専攻にはいます。

教員の多様性が高いことは、本専攻の大学院生が生命科学の多様な分野をそれぞれの専門家から学べることに直結します。それに加えて、大学院生が生命科学のどのような分野に興味を持ったとしても、それに何らかの接点の見いだせる教員がいることでもあります。

さらに本専攻には、基礎的な生物学研究を行う領域(生命科学領域)に加え、応用につながる研究を行う領域(応用生命科学領域)も設置され、学外の研究機関で生命科学のより広い領域の研究を行うこともできます。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 生命科学専攻 > 生命科学領域

- |   |  |
|---|--|
| 相垣 敏郎 教授 / 遺伝学、分子生物学、ゲノム科学、老化と寿命            | 鐘ヶ江 健 准教授 / 植物分子細胞生物学(植物の光環境応答分子機構)          |
| 岡本 龍史 教授 / 植物発生学、植物生殖学                      | 黒川 信 准教授 / 神経生物学、行動の神経支配機構                   |
| 加藤 潤一 教授 / 分子遺伝学、バクテリアのゲノム及び細胞増殖機構、生存機構の研究  | 高鳥 直士 准教授 / 発生生物学(脊索動物の胚葉運命分離機構)             |
| 川原 裕之 教授 / 細胞生物学・生化学(細胞の増殖・分化・恒常性維持の分子機構)   | 高橋 文 准教授 / 進化遺伝学(種分化の分子機構、集団遺伝学)             |
| 坂井 貴臣 教授 / 神経遺伝学(本能行動および学習・記憶の分子遺伝学的研究)     | 野澤 昌文 准教授 / 分子進化学、ゲノム進化学(特に性染色体の進化機構)        |
| 鈴木 準一郎 教授 / 植物生態学、草本植物を主な対象とした個体群・群集、実験生態学  | 福田 公子 准教授 / 発生生物学、消化管の分化の分子機構                |
| 田村 浩一郎 教授 / 進化遺伝学、ゲノム科学、バイオインフォマティクス        | CRONIN Adam 准教授 / 行動生態学、進化生態学                |
| 花田 智 教授 / 環境微生物学、光合成細菌の分離培養、細菌系統分類          | 浅田 明子 助教 / 神経生化学                             |
| 林 文男 教授 / 生態学、行動学、進化学                       | 朝野 維起 助教 / 昆虫免疫学、昆虫生化学、遺伝学、および昆虫の進化          |
| 春田 伸 教授 / 微生物生態学、環境微生物学、応用微生物学              | 加藤 英寿 助教 / 植物系統分類学、島嶼生物学、生物多様性情報学            |
| 村上 哲明 教授 / 植物分類学・進化学(植物と菌類の生物学的種分類、分子系統地理学) | 木下 温子 助教 / 植物発生学、植物生理学                       |
| 安藤 香奈絵 准教授 / 神経科学、細胞生物学、分子生物学、神経変性          | 斎藤 太郎 助教 / 神経生化学                             |
| 江口 克之 准教授 / 動物系統分類学、生物地理学                   | 武尾 里美 助教 / 生殖と発生の遺伝学、分子生物学                   |
| 得平 茂樹 准教授 / 分子生物学、分子生理学、微生物ゲノム学             | 立木 佑弥 助教 / 進化生態学、数理生物学                       |
| 岡田 泰和 准教授 / 進化生態学、生態発生学(動物の社会行動、性形質の進化)     | 古川 聡子 助教 / 病原糸状菌と植物の相互作用に関する研究、新病害の探索と原因菌の同定 |
| 角川 洋子 准教授 / 植物系統分類学、進化生物学                   | 横田 直人 助教 / 細胞生物学・発生生物学                       |

#### 生命科学専攻 > 応用生命科学領域

- |  |   |
|--|---|
| 相垣 敏郎 教授 / 遺伝学、分子生物学、ゲノム科学、老化と寿命           | 石神 昭人 教授 / 老年学、老化制御、高齢者医療                     |
| 岡本 龍史 教授 / 植物発生学、植物生殖学                     | 伊藤 嘉浩 教授 / 医療応用のための生体材料の設計と創成                 |
| 加藤 潤一 教授 / 分子遺伝学、バクテリアのゲノム及び細胞増殖機構、生存機構の研究 | 川原 裕之 教授 / 細胞生物学・生化学(細胞の増殖・分化・恒常性維持の分子機構)     |
| 坂井 貴臣 教授 / 神経遺伝学(本能行動および学習・記憶の分子遺伝学的研究)    | 坂井 貴臣 教授 / 神経遺伝学(本能行動および学習・記憶の分子遺伝学的研究)       |
| 原 孝彦 教授 / 幹細胞生物学、血液再生医療、がん治療、ケモカイン         | 安藤 香奈絵 准教授 / 神経科学、細胞生物学、分子生物学(神経変性疾患の分子メカニズム) |
|  | 瀬尾 光範 准教授 / 植物生理学、分子生物学、生理活性物質科学              |
|  | 高鳥 直士 准教授 / 発生生物学(脊索動物の胚葉運命分離機構)              |
|  | 松田 憲之 准教授 / 細胞生物学・生化学(蛋白質やオルガネラの分解機構)         |
|  | 浅田 明子 助教 / 神経生化学                              |
|  | 朝野 維起 助教 / 昆虫免疫学、昆虫生化学、遺伝学、および昆虫の進化           |
|  | 木下 温子 助教 / 植物発生学、植物生理学                        |
|  | 斎藤 太郎 助教 / 神経生化学                              |
|  | 武尾 里美 助教 / 生殖と発生の遺伝学、分子生物学                    |
|  | 古川 聡子 助教 / 病原糸状菌と植物の相互作用に関する研究、新病害の探索と原因菌の同定  |
|  | 横田 直人 助教 / 細胞生物学・発生生物学                        |

※ 2021年3月定年退職予定

# 都市環境科学研究科

- 都市環境科学専攻
- > 地理環境学域
  - > 建築学域
  - > 観光学域
  - > 都市基盤環境学域
  - > 環境応用化学域
  - > 都市政策科学域

都市環境科学研究科では各分野において世界をリードする国際的研究活動を展開しています。都市環境を構成する「人間」「物質」「エネルギー」「情報」「人工物」「自然」の各要素について、観測と解析を基礎にその相互作用を明らかにします。新たに公共政策の分野を加え、任意の空間・時間における各要素の変動予測・設計・制御が可能となる方法論の開発と社会環境を制御する政策・制度の分析により、持続・発展する都市を構築しうる科学体系としての都市環境科学の確立を目指します。

都市環境の構成要素に関わる専門的な研究領域とそれらが融合した新しい領域を対象に、先進的な研究を推進し、課題の発見・解決によりメガシティの将来を先導する人材の育成を行っています。

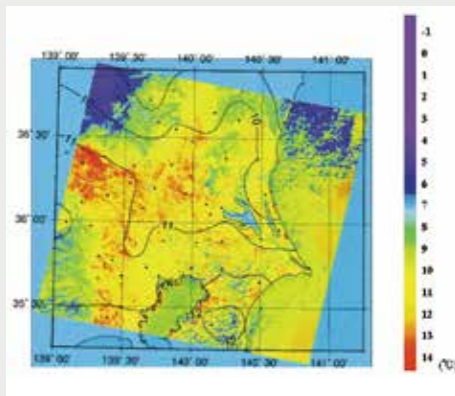
## 都市環境科学専攻

### 地理環境学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/geog/>

入学定員 博士前期課程 / 15名、博士後期課程 / 5名

主な就職先 応用地質、国際航業、日本工営、日本気象協会、国際協力機構、東京都庁、茨城県庁、駒澤大学高等学校 など



関東地方の気温分布(等値線)と地表面温度の分布(カラー)

地理環境は、自然環境と人工環境とからなり、都市スケールから、地方スケール、国土スケール、大陸スケール、地球スケールに至るまで、さまざまな空間的広がりをもっています。地理環境学は、過去から現在に至る地理環境と人間のダイナミックな相互関係について、特定の一つの空間スケールで研究するだけでなく、異なる空間スケールで起こっている現象相互の関連性を視野に入れながら解明することを目指しています。

地球温暖化や経済のグローバル化など、世界的規模で進行する現象をローカルな地域で研究するとき、この視点は特に重要になります。空間スケールの違いによる地理的現象の発現形態やメカニズムの相違、および同一空間スケールにおける地域差に焦点を当ててきた従来の地理学に、こうした新しい視点を加えることにより、都市や環境の研究をさらに深化させることができます。

地理環境学域は地形・地質学、気候学、環境地理学、地理情報学、都市・人文地理学の5研究室で、これらの課題に関わるテーマに取り組んでいます。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 地理環境学域

- 鈴木 毅彦 教授 / 地形学、第四紀学、火山学、火山灰編年学
- 高橋 日出男 教授 / 都市～大陸スケールの降水現象、都市気候・局地風系など地域の大気環境
- 松本 淳 教授 / モンスーン気候学、気候変動、気候環境論
- 松山 洋 教授 / 水文気象学、地理情報科学

- 若林 芳樹 教授 / 都市地理学、行動地理学、GIS(地理情報科学)
- 渡邊 真紀子 教授 / 土壌地理学、環境動態解析
- 川東 正幸 准教授 / 土壌生態学、環境化学、物質循環
- 白井 正明 准教授 / 堆積学、第四紀地質学、海洋地質学
- 滝波 章弘 准教授 / 地誌学、表象分析、地域文化論、フランス語圏研究

- 矢部 直人 准教授 / 都市地理学、計量地理学
- 石村 大輔 助教 / 変動地形学、第四紀地質学
- 泉 岳樹 助教 / 都市気候学、地理情報科学
- 高橋 洋 助教 / 気象学、気候システム学、気象・気候シミュレーション(モデリング)
- 坪本 裕之 助教 / 人文地理学
- 中山 大地 助教 / 自然地理学、地理情報科学

## TMU #EDUCATION



01

世界最大規模の都市・東京を拠点に確立を目指す新しい科学

01 > 自然・人文・社会科学を包括する学際性

都市環境科学とは、生活と自然環境の調和を図り、安全で機能的な都市空間を創造・維持するため、東京立大学が確立を目指す科学。その領域は、理学や工学に加え、人文・社会科学も包括する学際性を特徴とし、取り組む課題は都市機能と環境の関連性、エネルギーの高度利用、老朽化するインフラの更新、少子高齢化対応など多岐にわたり、都市環境科学の確立を担うための、多様な「引き出し」を追究します。



02

02 > 世界の都市が注目する研究の成果

建物の表面温度や空調の排熱によるヒートアイランド現象の抑制にも、都市空間におけるエネルギー利用の効率化や高機能な建築材料の開発など、さまざまな要素が関わります。世界最大規模の都市である東京を拠点とした研究活動は、国際的にトップクラスの水準にあり、世界中の都市が研究の成果に注目しています。海外からの留学生も多く、英語で行う科目もあるなど、国際性に富むことも都市環境科学研究科の特徴です。

### 都市基盤環境学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/civil/>

入学定員 博士前期課程 / 35名、博士後期課程 / 4名

主な就職先 東京都庁、静岡県、水資源機構、鉄道・運輸機構、首都高速道路、中日本高速道路(NEXCO中日本)、東日本旅客鉄道(JR東日本)、西武鉄道、京王電鉄、鹿島建設、大林組、大成建設、鉄建建設、三井住友建設、オリエンタルコンサルタンツ、日本工営 など



都市基盤環境学(Civil & Environmental Engineering)は、その英語名が示すとおり、市民のための学問であり、「美しい国土・都市の建設」、「安全にして安心出来る生活環境の構築」、「豊かな社会基盤の形成」を目的としています。その役割は、社会基盤の計画・構築・運用・維持管理、都市環境、自然環境の維持・保全、さらに人々の生命や資産を災害から守る防災など広範囲に及びます。

本学域では、「社会基盤」、「環境システム」、「安全防災」の3つの観点から、都市基盤環境学について体系的に研究しています。そして、研究・教育活動を通して、主体的に課題を発掘し、それを解決していくことができる人材を育成しています。国内外の研究機関との連携研究や共同講義も積極的に行われていて、多くの研究成果が東京都をはじめ、広く社会に還元されています。東京は世界でも屈指の大都市です。東京都が持つ課題を克服していくことは、東京都に貢献するだけでなく、他の地域や世界の国々に対して常に先駆的に情報を発信することにもつながります。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 都市基盤環境学域

- 砂金 伸治 教授 / トンネル工学、地下空間工学、岩盤力学
- 宇治 公隆 教授 / コンクリート材料学、コンクリート構造学。最近は耐久性、補修・補強に注力
- 小根山 裕之 教授 / 交通工学、交通環境、交通計画、交通シミュレーション
- 河村 明 教授 / 水文学及び水資源工学
- 村越 潤 教授 / 橋梁工学、鋼構造学
- 横山 勝英 教授 / 環境水理学

- 荒井 康裕 准教授 / 上水道工学、環境システム
- 石倉 智樹 准教授 / 土木計画学、経済分析
- 上野 敦 准教授 / コンクリート工学、コンクリートにおける材料科学
- 小田 義也 准教授 / 物理探査、地震工学
- 酒井 宏治 准教授 / 上水道、下水道、水質保全、水域管理
- 新谷 哲也 准教授 / 水工水理学、数値流体力学
- 中村 一史 准教授 / 構造工学、橋梁工学、維持管理工学

- 吉嶺 充俊 准教授 / 土質力学、特に地盤の液状化
- 天口 英雄 助教 / 水工水理学、水文学
- 大野 健太郎 助教 / コンクリート材料学、コンクリート構造物の維持管理(非破壊検査)
- 岸 祐介 助教 / 構造工学、耐震工学、地震防災
- 柳原 正実 助教 / 交通工学、交通流解析、運転挙動モデリング

# 都市環境科学研究科

都市環境科学専攻  
 > 地理環境学域 > 都市基盤環境学域  
 > 建築学域 > 環境応用化学域  
 > 観光学域 > 都市政策科学域

## 都市環境科学専攻

**建築学域** <http://www.ues.tmu.ac.jp/arch/>

入学定員 博士前期課程 / 35名、博士後期課程 / 4名  
 主な就職先 総合建設業、組織建築設計、建材等メーカー、デベロッパー、官公庁 など



エネマネハウス2017 首都大学東京 ZEHビレッジ アジア蒸暑気候下の町屋



エネマネハウス2018 竣工・公開

建築学域では、「持続可能社会における安全で快適な建築都市空間を美しく構築する」ための研究の推進およびそれを担う人材育成を目的とします。建築ストックを適切に維持管理しつつ安全・快適・魅力的かつ環境負荷の少ない建築都市空間を創出するための研究、および今後顕在化する建築物の諸問題に対する広範囲な研究を行い、学術および社会に貢献します。また、建築に関する幅広い理論や技術を修得し、建築の問題を解決する能力および高い専門性を持つ人材を育成します。

本学域では、建築計画・都市計画、建築歴史・意匠、建築生産・材料、建築構造、建築環境を研究分野とする「基盤研究コース」で、問題解決のための先進的かつ実践的な研究に取り組みます。また「プロジェクト研究コース」では、都市や建築の抱える複雑な問題を把握し解決できる実践能力の養成を目的に、個々の専門分野に通じた複数の教員がプロジェクトチームを組織し、具体的なプロジェクトを通して指導を行います。修了要件を満たすと、修士(工学、建築学)、博士(工学、建築学)の学位を取得できます。

左に示すエネマネハウス2017は、ゼロエネルギーハウスの設計・建設コンテストであり、全国からの応募・コンペの結果として本学の提案が採択されました(5チームが選抜された)。建築学域が5年間行ってきたアジア高度研究の集大成として、アジアへの普及展開を見据えたゼロエネルギーハウスの企画・設計を学生が主体として行いました。このような実践的な経験を得る機会があることも、建築学域の特徴です。

**環境応用化学域** <http://www.ues.tmu.ac.jp/apchem/>

入学定員 博士前期課程 / 50名、博士後期課程 / 6名  
 主な就職先 信越化学工業、大日本印刷、トヨタ自動車、日清オイログループ、三井化学、三菱ケミカル、東京都立大学法人 など  
 ※本学域の前身となる「分子応用化学域」の修了生実績



原子レベルの観察を可能とする最新鋭の透過型電子顕微鏡



論文発表終了後、スタッフ・学生とともに

本学域では、地球環境と共生しながら、有限な地球資源やエネルギーのもとで人類や社会が持続的に発展していくために、応用化学や材料化学における先導的な役割を果たし得る創造的かつ問題発見・解決能力のある技術者・研究者の育成を目的としています。特に、物質やエネルギーが高密度に集積した都市における諸問題を解決するために必要となる化学的な基礎学問の習得を目指す教育を展開しています。また、本学域では自主性を重んじ、問題の解決能力に加えて問題の発見能力を養うことに重点を置いた研究教育を行っています。環境科学、環境分析化学、高分子化学、有機材料化学、生命化学、錯体化学、無機材料化学、電気化学、化学工学、表面化学、光化学、触媒化学、大気化学などの研究分野をベースに環境、エネルギー、バイオ、ナノテクノロジーをキーワードとする世界最先端の研究を通じ、幅広い視野を持った21世紀をリードする技術者・研究者の育成を目指します。国内外の著名な研究者を招いたコロキウムも毎年10回程度開催し、世界最先端の研究に触れる機会を数多く提供しています。

### 教員一覧 / 専門分野

建築学域		
北山 和宏 教授 / 鉄筋コンクリート構造、耐震設計論、鉄筋コンクリート建物の力学特性と耐震性能	鳥海 基樹 教授 / 都市計画	多幾山 法子 准教授 / 木質構造、建築振動学、建築保全再生学
橋高 義典 教授 / 建築材料学、緑化材料、内装材料、高性能コンクリート、外装材料の美観維持	永田 明寛 教授 / 建築環境学、建築の熱湿気環境と熱負荷	猪熊 純 助教 / 建築設計
小泉 雅生 教授 / 建築設計、建築意匠	吉川 徹 教授 / 都市計画、都市解析、地理情報システム	尾方 壮行 助教 / 建築環境学
竹宮 健司 教授 / 医療施設計画、高齢者福祉施設、地域生活支援施設、環境行動研究	一ノ瀬 雅之 准教授 / 建築設備、都市・建築環境、建築設備システム開発・検証	木下 央 助教 / 建築史、意匠
角田 誠 教授 / 建築生産、ストックマネジメント、建築構成材のリユースシステム	伊藤 喜彦 准教授 / 西洋建築史	國枝 陽一郎 助教 / 建築材料、建物解体、建築・解体廃棄物利用
	壁谷 澤 寿一 准教授 / 建築防災学、耐震構造、鉄筋コンクリート構造	讃岐 亮 助教 / 都市計画、都市解析、施設立地・配置分析、GISを活用した都市空間分析
	高木 次郎 准教授 / 鋼構造、構造設計、構造システム開発	松本 真澄 助教 / 住居学
		山村 一繁 助教 / 建築構造・材料

### 教員一覧 / 専門分野

環境応用化学域		
内山 一美 教授 / 分析化学、化学ナノ造形、微小領域の化学、ナノ液滴	高木 慎介 教授 / 光化学、ナノ構造化学、機能性色素材料、ナノ層状化合物の化学	中嶋 秀 准教授 / 分析化学、マイクロ化学分析システム(μTAS)、クロマトグラフィー、電気泳動、化学センサ、バイオセンサ
梶原 浩一 教授 / 無機材料化学、光・電子機能セラミックス・ガラス、深紫外光材料	立花 宏 教授 / 量子化学計算による光化学プロセスの現象解明、化学情報学	柳下 崇 准教授 / 材料化学
金村 聖志 教授 / 電池、燃料電池、電気化学、セラミックス材料化学、生体関連セラミックス	朝山 章一郎 准教授 / 生体材料化学(バイオマテリアル)、医用高分子、生化学、生体分子工学	山登 正文 准教授 / 材料化学、構造・機能材料
川上 浩良 教授 / 高分子化学、機能性分離材料、固体電解質膜、ナノファイバー工学、バイオマテリアル、エビジェネティクス工学	石田 玉青 准教授 / 触媒化学	稲垣 佑亮 助教 / 有機金属化学、典型元素化学
久保 由治 教授 / 有機合成化学、超分子化学、機能性色素	加藤 俊吾 准教授 / 環境化学、大気化学、東アジア大気環境	嶋田 哲也 助教 / 物理化学
穴戸 哲也 教授 / 触媒化学、表面科学、水素エネルギー	佐藤 潔 准教授 / 複素環合成、分子認識化学、構造有機化学	西薮 隆平 助教 / 超分子化学 分子認識化学 ナノ材料化学
首藤 登志夫 教授 / 水素エネルギー、自動車動力システム、燃料電池、エンジン、燃焼、代替燃料	武井 孝 准教授 / 表面化学、セラミックス化学、触媒化学	乗富 秀富 助教 / バイオプロセス工学、生体触媒化学、ナノ材料
瀬高 渉 教授 / 有機物理化学	田中 学 准教授 / 高分子化学、機能性高分子、エネルギー材料	三浦 大樹 助教 / 触媒化学
		毛 思鋒 助教 / 分析化学、マイクロ流体、単細胞分析
		棟方 裕一 助教 / 電気化学、燃料電池、リチウム電池、構造化セラミックス材料

# 都市環境科学研究科

- 都市環境科学専攻
- > 地理環境学域
  - > 都市基盤環境学域
  - > 建築学域
  - > 環境応用化学域
  - > 観光科学域
  - > 都市政策科学域

## 都市環境科学専攻

### 観光科学域

<http://www.ues.tmu.ac.jp/tourism/index.html>

**入学定員** 博士前期課程 / 15名、博士後期課程 / 5名  
**主な就職先** 東日本旅客鉄道 (JR東日本)、ANAセールス、ジェイアール東日本商事、星野リゾートマネジメント、オリエンタルコンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ、日本交通、エイチ・アイ・エス、警察庁、東京都庁、横浜市役所 など



野外実習の様子



修士論文最終発表会の様子

本学域は、「観光」の資源やフィールドとなる都市・集落や自然地域の諸環境の保全や改善、適正利用を進めるため、また、観光を活用して地域の魅力や価値の向上、地域経済の向上といった地域づくりを進めるための教育・研究に取り組んでいます。理学的・工学的な知識と技術を用いて、地域の現象解明や観光者の行動・意識の解読を行い、計画立案、観光振興の実践活動を担えるジェネラリストや専門家、教育者、研究者を育成します。

特に本学域では、産学官連携による共同研究を取り入れ、企画・提案者の立場で、地域社会との関わりの中で「観光地の診断から計画、実践まで」を研究することや、積極的に大学院生の海外派遣や留学生の受け入れを行い、国際性や広い視野を持ちながら、観光やその環境をめぐる課題を調整し、解決することを目指します。

本学域では、自然環境を利用する観光を通じた持続的な自然環境の利用・管理への貢献を目指す自然環境マネジメント領域、都市や集落地域の空間や建造物、そこで生まれる文化を活用する観光を通じた地域環境の魅力向上を目指す地域計画・マネジメント領域、観光者、企業・組織などの心理や行動の分析に基づいた観光者へのサービスと情報の提供を目指す行動・経営科学領域が有機的に連携しながら分野横断型の研究教育を行います。

### 都市政策科学域

<https://www.usp-tmu.jp/>

**入学定員** 博士前期課程 / 15名、博士後期課程 / 5名  
**主な就職先** 東京都庁、横浜市役所、世田谷区役所、都市再生機構 (UR都市機構)、西日本旅客鉄道 (JR西日本)、京王電鉄、大林組、類設計室、GA technologies、地域まちづくり研究所 など

※本学域の前身となる「都市システム科学域」の修了生実績



東日本大震災・住宅再建ワークショップでのアウトリーチ活動



中国・韓国の学生と共に考える「グローバル都市東京研究」

都市政策科学域は、ダイナミックな変化を遂げる現代の都市を総合的に捉え、安全・安心・快適な都市のあり方を、空間・制度・社会など種々の面から解明・考究し、持続可能な都市づくりを実践できる人材を育成します。現代の都市の現象を科学的に解析する技術や研究手法、各種の領域で展開される公共政策に対する多角的な知見を深める理論的・学際的な科目に加え、都市政策を担う公的機関や民間事業者、NPO、地域コミュニティ組織などとの協働研究に基づく実践的な教育活動や、協定を結ぶアジアの大学からの学生とともに学び合うプログラムも提供されます。そして、博士前期・後期課程に所属する全学生が参加し、各分野の専門家である全教員が指導を行うと共に学生相互での議論を通じて知見を高め合うセミナーの開講など、分野横断的な研究指導も行われます。なお、博士前期課程入学試験では、一般選抜入試に加えて、実務経験を基に研究をしようとする社会人学生を対象に「社会人特別入試」を実施します。また、同じく博士前期課程においては、最先端の研究を究めたい学生から、実践的な知識・能力を習得したい学生までの存在を考慮し、学位論文に代えて、特定の課題についての研究の成果を提出することによっても修了することができます。

#### 教員一覧 / 専門分野

- 観光科学域
- |  |                                      |   |
|--|--------------------------------------|---|
| 川原 晋 教授 / 都市・地域デザイン、観光まちづくり、観光地経営、市民事業、地域ブランディング         | 大澤 剛士 准教授 / 生物多様性情報学、応用生態学、保全科学      | 日原 勝也 准教授 / 経営学、ミクロ経済学、観光政策、交通政策                |
| 菊地 俊夫 教授 / 人文地理学、自然ツーリズム学 (ルールツーリズム、エコツーリズム、環境資源利用、環境保全) | 岡村 祐 准教授 / 都市デザイン、都市計画、観光まちづくり、観光地域史 | WU Lingling 准教授 / 観光マーケティング、観光行動モデル             |
| 清水 哲夫 教授 / 交通学、社会基盤計画学、観光計画学                             | 倉田 陽平 准教授 / 地理情報科学、空間情報処理、観光情報システム   | 小笠原 悠 助教 / 社会システム工学 (レベニューマネジメント、オペレーションズ・リサーチ) |
| 沼田 真也 教授 / 保護地域管理、熱帯生物学、都市生態学                            | 高木 悦郎 助教 / 森林動物学、個体群生態学              | 野田 満 助教 / 農村計画、都市・地域デザイン、観光まちづくり                |
|  | 直井 岳人 准教授 / 観光学 (観光地環境評価、観光者心理)      |   |

#### 教員一覧 / 専門分野

- 都市政策科学域
- |  |  |   |
|--|--|---|
| 饗庭 伸 教授 / 都市計画、まちづくり、都市デザイン、都市計画制度、ワークショップ手法     | 奥 真美 教授 / 都市政策法務、環境法、行政法   | 金子 憲 准教授 / 財政学、公共経済学                      |
| 朝日 ちさと 教授 / 環境経済学、都市・地域経済学、政策評価、費用便益分析、社会資本整備の評価 | 白石 賢 教授 / 法と経済学、経済刑法   | 杉原 陽子 准教授 / 健康社会学、高齢者福祉、社会老年学、公衆衛生学       |
| 市古 太郎 教授 / 都市防災学、災害復興史、大都市計画論、コミュニティ防災、防災科学      | 玉川 英則 教授 / 都市解析、都市計画、GIS (地理情報システム) を応用した都市の空間解析、都市の分析論と計画論の接点に関する研究 | 長野 基 准教授 / 行政学、地方自治、ローカル・ガバナンス            |
| 伊藤 史子 教授 / 都市・地域・環境の計画と評価、都市・地域解析、都市環境心理・行動分析    | 松井 望 教授 / 行政学、都市行政論  | 山本 薫子 准教授 / 都市社会学、地域社会学、大都市インナーエリア、質的社会調査 |
|  | 和田 清美 教授 / 都市社会学、コミュニティ論   | 高道 昌志 助教 / 都市計画、都市史、まちづくり                 |

※ 2021年3月定年退職予定



# システムデザイン研究科

システムデザイン専攻

- > 情報科学域
- > 電子情報システム工学域
- > 機械システム工学域
- > 航空宇宙システム工学域
- > インダストリアルアート学域

本研究科では、情報科学域、電子情報システム工学域、機械システム工学域、航空宇宙システム工学域、インダストリアルアート学域の5つの学域の博士前期・博士後期課程の教育研究プログラムを提供し、各学域でのシステムデザイン教育ならびに先駆的・創造的な研究活動を通して、知的社会を支える高度な専門知識や技術力を有する研究者およびエンジニア／クリエイターを育成します。また、時代を先導する様々なシステムを立案・実現するために必要な「システムデザイン力」を身につけるための研究プロジェクト演習や、実社会でのニーズや企業での開発研究の実際などを理解するためのシステムデザイン特論を開講するなど、実践的な人材育成教育にも力を注いでいます。

各学域では、学位論文の研究進捗状況についての公開期末評価を義務付けており、学位の質保証につながる指導を行っています。

## システムデザイン専攻

### 情報科学域

<https://cs.sd.tmu.ac.jp/>

**入学定員** 博士前期課程／35名、博士後期課程／6名

**主な就職先** エヌ・ティ・ティ・データ(NTTデータ)、NTTコミュニケーションズ、日本電気(NEC)、キャノン、KDDI、ソフトバンクグループ、デンソー、トヨタ自動車、日産自動車、日本総合研究所、野村総合研究所、パナソニック など

※本学域の前身となる「知能機能システム学域」「情報通信システム学域」「経営システムデザイン学域」の修了生実績



コンピュータを用いたシステムプログラミングの演習

情報技術は、今やあらゆる社会的活動と生活の隅々にまで浸透し、その効率化と質の向上に劇的な変化を生み出しながら、引き続き目まぐるしい速度で技術革新を続けています。一方で、情報システムの安定運用やセキュリティの脅威に関わるリスク管理など、未知の技術課題が次々に現れつつあります。情報科学域では、基礎学術と専門的知識を十分に修得させることで、革新し続ける情報技術の発展を支え、リスクに適切に対処する決断力を持った、グローバルに活躍できる技術者・研究者の育成を目指しています。

本学域では、次のような学生を求めています。

1. 先進的な情報科学分野の知識・技術に幅広く興味を持っている人
2. 情報処理技術、情報通信技術、それらの基盤となるシステム技術における新しい創造に対して主体的に取り組む意欲を持っている人
3. 情報技術の基礎理論系、アーキテクチャ系、コンテンツ系に関する専門的基礎知識をしっかりと身につけている人

### 電子情報システム工学域

<http://www.comp.sd.tmu.ac.jp/eecs/>

**入学定員** 博士前期課程／60名、博士後期課程／6名

**主な就職先** 富士通、日立製作所、日本電気(NEC)、三菱電機、SCSK、エヌ・ティ・ティ・データ(NTTデータ)、東日本電信電話(NTT東日本)、ソフトバンクグループ、日本ユニシス、富士ゼロックス、ヤフー、リコー、野村総合研究所 など

※本学域の前身となる「電気電子工学専攻」「情報通信システム学域」「経営システムデザイン学域」の修了生実績



レーザーを用いた大気環境計測の実験

電子情報システム工学は、情報、通信、エレクトロニクス、エネルギーに代表されるように、現代社会を支える基盤技術であると同時に、先端・フロンティア技術でもあります。新たな技術開発においても、電子情報システム工学の果たす役割は今後ますます重要なものとなることが予想されます。

このような背景を踏まえ、本学域では、電子情報システム工学分野の高度な専門教育と先端的課題研究を通して、「情報システム技術及び電気電子通信システム技術に関する体系的・総合的知識基盤を持つ創造的な技術者・研究者を育成すること」を基本理念としています。そして、「情報ネットワークシステム」、「通信システム」、「エネルギー情報システム」の3領域を電子情報システム工学における学問体系の主要な柱と位置づけ、これらの体系的・総合的知識に基づく高度な実践力、課題解決・発見能力、高い倫理観・使命感を兼ね備えた技術者・研究者の育成をめざしています。

## TMU #EDUCATION



01

システムという全体と社会的需要を考察する先端研究を展開

01 研究者も想像しない領域に広がる可能性

航空宇宙システム工学の取り組みに、100kg未満の超小型人工衛星に搭載する推進系の開発と、人工流れ星の実現に向けた研究があります。人工流れ星は新しいエンターテインメントの開発として着手した研究でしたが、流星が光る高層大気層の詳細なデータを収集し地上の気象変動への影響を調べる等、サイエンスとしてのミッションが加わる予定です。このように一つの研究が想像を超えた領域に拡大する可能性もあります。



02

02 知識や技術を統合し、先駆的領域を開拓

システムデザインは総合工学。社会の課題解決やニーズへの対応のために必要とする知識や技術を統合し、先駆的な領域を開拓します。人工流れ星の例が示すように、本研究科で取り組む全ての研究は、そこに関わる多種多様な分野のうちいずれかが進展することで、新しい姿を表出する可能性を秘めています。システムという全体を常に考えつつ、社会の要請に応えたり需要を触発したりしながら、システムデザインを追求します。

### 機械システム工学域

<http://www.comp.sd.tmu.ac.jp/mech/>

**入学定員** 博士前期課程／65名、博士後期課程／6名

**主な就職先** トヨタ自動車、本田技研工業、いすゞ自動車、SUBARU、スズキ、デンソー、川崎重工業、三菱重工業、IHI、日本精工、荏原製作所、ダイキン工業、日立製作所、富士電機 など

※本学域の前身となる「機械工学専攻」「知能機械システム学域」「経営システムデザイン学域」の修了生実績



歩行ロボットコンテスト

機械システム工学域では、都市生活における人間の安全性と快適性および地球環境や社会の持続可能性に配慮した先進の機械システム工学の教育を基盤とし、学際分野、未開拓分野にも対応可能な創造性や応用展開力を有する技術者・研究者を育成することを目的としています。本学域は以下の3つの研究教育領域から構成されます。

**機械創成領域**

機能材料と加工および基礎となる計測技術に関する概念・理論とともに、知能機械・生体機械の二つの基幹領域に横断する基礎的な方法論について教育し、ついで固有の専門分野に関する教育を行います。

**知能機械領域**

「安全・安心で持続可能な社会」を実現するため、「機械制御・知能化システム」および「サービスマニピュレーション・ロボット工学」に関する学問を教育し、ついで固有の専門分野に関する教育を行います。

**生体機械領域**

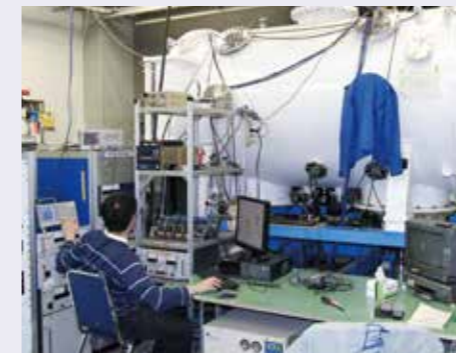
「高レベルな健康の維持および医療の支援」を実現するため、「医用工学・生体工学」および「人間工学・福祉工学」に関する学問を教育し、ついで固有の専門分野に関する教育を行います。

### 航空宇宙システム工学域

<https://aerastro.sd.tmu.ac.jp/>

**入学定員** 博士前期課程／30名、博士後期課程／4名

**主な就職先** 日本航空(JAL)、全日本空輸(ANA)、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、三菱重工業、川崎重工業、IHI、三菱電機、日本電気(NEC)、パナソニック、トヨタ自動車、本田技研工業、日産自動車、SUBARU、マツダ、日立製作所、住友精密工業、日揮、日本郵船、エヌ・ティ・ティ・データ(NTTデータ)、ジャムコ など



宇宙環境模擬下でのイオンエンジン作動実験

航空機・宇宙機の要素技術やシステム設計技術および宇宙開発利用に関する技術など総合工学としての航空宇宙工学に関する研究教育を通じ、国際的な視野と高い信頼性を要求されるシステムとして捉えうるエンジニアリング・マインドと課題解決力を持ち、航空宇宙産業のみならずさまざまな先端産業分野で活躍できる技術者、研究者を養成します。

研究教育分野は、飛翔体の飛行や推進の基礎となる「流体力学」、航空宇宙用の複合材料や高温耐熱材料の力学から微小重力環境での材料プロセスまでを含んだ「材料・構造工学」、航空機・ロケットなどの「推進システム工学」、人工衛星の軌道と姿勢の制御や航空交通管理を扱う「誘導制御工学」、航空機・宇宙機を構成する要素設計やシステム統合設計、およびその実応用、またそのために必要な手法を研究する「システム設計工学」、リモートセンシングや衛星利用の航法システム、宇宙環境工学など宇宙の実利用を重視した「宇宙利用工学」の6分野からなります。

さらに、連携大学院客員教授(宇宙航空研究開発機構、情報通信研究機構、海上・港湾・航空技術研究所)も加わり、最新の研究施設を利用した大学院教育を行える体制を整えています。

# システムデザイン研究科

- システムデザイン専攻
- > 情報科学域
  - > 電子情報システム工学域
  - > 機械システム工学域
  - > 航空宇宙システム工学域
  - > インダストリアルアート学域

## システムデザイン専攻

### インダストリアルアート学域

https://industrial-art.sd.tmu.ac.jp/

**入学定員** 博士前期課程 / 25名、博士後期課程 / 4名

**主な就職先** リクルートホールディングス、ソフトバンクグループ、ヤフー、サイバーエージェント、日本デザインセンター、凸版印刷、青森県立美術館、星野リゾートマネジメント、ソニー、パナソニック、富士通デザイン、日本電気 (NEC)、東芝、アシックス、ミサホーム、丹青社、トヨタ自動車、日産自動車、SUBARU、東日本旅客鉄道 (JR東日本) など



現代の激しい社会の変化、価値観の変化、技術の革新の波の中で、これらの変化に迅速に対応でき時代を先導できる柔軟で斬新な発想力を持ったクリエイターが強く望まれています。本学域では、この社会の要請に応えるため、新しいアプローチ、コンセプト、枠組みのデザインを創造・研究・実践し、さらには社会の枠組みの変化さえ先導しようと発想する新しいタイプのクリエイターの育成を目指しています。

そのために、本学域では、工学的側面から社会文化的側面に至る広範囲なデザイン領域を横断的複層的に研究対象として扱っています。本学域の構成は、交通機関・工業製品・空間などのデザインや人間工学から人と環境双方に役立つものづくりを展開する「プロダクトデザイン分野」と、先端メディア・テクノロジーや芸術活動を通じて新たな感性コミュニケーションを創出する「メディア創生分野」の2つの研究分野から成り、両分野が互いに連携することによってさらに大きなシステムを研究対象としていきます。

### 教員一覧 / 専門分野

情報科学域		
會田 雅樹 教授 / 通信ネットワークの自律分散制御、オンライン社会ネットワークにおけるユーザダイナミクスなどの研究	藤吉 正明 教授 / メディア情報セキュリティ、画像処理、画像圧縮応用	横山 昌平 准教授 / ジオソーシャルデータ分析アルゴリズム、ソーシャルデータの観光応用、Web技術を用いたデータ可視化
石川 博 教授 / ソーシャルメディアや実世界との相互作用から生まれる大量データ(ビッグデータ)を有機的、効率的に解析し、新しい価値を発見する技術の研究	松田 崇弘 教授 / 情報通信ネットワークの計測、監視、トモグラフィ技術、無線ネットワークの設計・制御技術	塩田 さやか 助教 / 統計的手法を用いた音声認識・話者照合に関する研究
小野 順貴 教授 / 音の信号処理と情報処理(音源分離、音源定位、音シーン認識、非同期分散音響処理、音楽信号加工など)	山口 亨 教授 / 人間のジェスチャーを理解する意図の認識機構、人間と意図を共有しコミュニケーションするオントロジー機構、コミュニケーションが空間全体に広がる知能空間の研究	柴田 祐樹 助教 / データマイニング、情報推薦、人工知能、最適化
貴家 仁志 教授 / 信号処理、画像圧縮、画像処理、情報セキュリティとフォレンジックス	片山 薫 准教授 / 大規模な三次元CADモデルを対象とした高精度な検索技術の研究開発	下川 原 英 助教 / ヒューマンコンピュータインタラクション、ジェスチャー認識に関する研究
高間 康史 教授 / Webインテリジェンス、データマイニング、情報可視化、情報推薦	小町 守 准教授 / 自然言語処理、機械学習、ウェブマイニング	塚常 健太 助教 / SNSユーザの行動と心理、社会統計学、名称学
西内 信之 教授 / ヒューマンインタフェース、ユーザビリティ、生体認証	福井 隆雄 准教授 / 心理物理実験やモーションキャプチャシステムを用いた運動学的解析によるヒトの知覚・行動特性に関する研究	藤田 八郎 助教 / 符号理論、信号処理に関する研究
電子情報システム工学域		YEM Vibal 助教 / ヒューマンインタフェース、バーチャリアリティ、力覚覚、ロボティクス
朝香 卓也 教授 / 安全で快適な次世代情報環境の実現を目指した、情報ネットワークシステム技術とその応用に関する研究開発	初久保 文嘉 教授 / 放電物理、パルスパワー、気体放電プラズマとプラズマ化学反応の基礎とその応用。特に環境浄化技術への応用	渡部 泰明 教授 / 電子工学、計測工学
阿保 真 教授 / 電波や光を利用した遠隔環境情報計測及びその情報を伝送するシステムの研究	福本 聡 教授 / 自己回復能力をもつVLSIの構成、評価に関する研究、並列・分散システムの障害回復機能を実現するアルゴリズム、プロトコル等の研究	大久保 寛 准教授 / 波動情報工学、信号処理、数値解析、超並列計算、音響計測・解析、電磁界計測・解析、可視化技術
内田 諭 教授 / 放電物理、プラズマ応用、静電気学	松井 岳巳 教授 / 人間工学、医療工学、安全工学、工学と医学の両方の側面から、医療や安全に関わるシステムの研究開発	五箇 繁善 准教授 / 精密な周波数・時間・時刻の発生とその応用に関する研究
開沼 泰隆 教授 / サブライチ・チェーン・マネジメント、リバー・ロジスティクス	三浦 大介 教授 / 超伝導工学(超伝導材料、超伝導応用)、磁気分離による環境浄化と資源回収	酒井 和哉 准教授 / 情報ネットワーク、ネットワーク・セキュリティ
梶原 康博 教授 / 生産システムの設計・管理、ロボット・画像処理を用いた作業の自動化、人工現実感を用いた工程設計などに関する研究	三浦 幸也 教授 / 高信頼性VLSIの設計に関する研究、VLSIの故障モデル化と効率テストに関する研究	坂本 高秀 准教授 / 光通信・計測に関する研究
清水 敏久 教授 / 半導体電力変換工学、半導体電力回路のモデリング・制御と産業応用	安田 恵一郎 教授 / システム工学、最適化手法と電力システムへの応用	柴田 泰邦 准教授 / 地球・都市環境問題に役立つリモートセンシングシステム(光計測、非接触可視化など)に関する研究
鈴木 敏久 教授 / 生体電磁気学、プラズマ理工学、数値シミュレーション	山本 久志 教授 / 大規模・複雑化するシステムの設計や評価技術に関する研究及びデータマイニング技術を利用した情報抽出技術に関する研究	渋谷 正弘 准教授 / 作業者を含めた生産技術の視覚化、企業における意志決定のための情報の収集技術と企業情報の視覚化、及び、個人の知的生産性を支援するための支援方法に関する研究
須原 理彦 教授 / 量子電子工学・半導体デバイス工学		相馬 隆郎 准教授 / 精度保証付き数値計算法、ロボット工学
田川 憲男 教授 / コンピュータビジョン、画像応用技術、超音波信号処理		中村 成志 准教授 / 応用物性・結晶工学
		西川 清史 准教授 / 信号処理、メディア情報伝送、適応信号処理

※ 2021年3月定年退職予定

### 教員一覧 / 専門分野

電子情報システム工学域		
和田 圭二 准教授 / パワーエレクトロニクス、特に分散型電源や電力系統応用に関する研究	田村 健一 助教 / システム制御理論	原田 智広 助教 / 進化計算、機械学習、知的エージェント
斉藤 光史 助教 / 化合物半導体結晶成長・半導体デバイス工学	土屋 淳一 助教 / 電気機器、電気エネルギー工学、パワーエレクトロニクス	八木 一平 助教 / 低温プラズマによる治療デバイスの開発、電界・超音波による衝撃波の生体応用、超音波画像を用いた動作解析
佐藤 隆幸 助教 / 超音波生体画像、生体医学	中川 雄介 助教 / プラズマ化学の産業応用、プラズマの分光診断	KIK Alfred 助教 / 電磁波工学
史 虹波 助教 / ネットワーク通信、機械学習	西辻 崇 助教 / ホログラフィ、情報光学	
肖 霽 助教 / システム信頼性評価に関する研究		
機械システム工学域		
小口 俊樹 教授 / 制御工学、非線形制御理論、むだ時間システムの制御、複雑系の制御・同期	増田 士朗 教授 / データ駆動制御、適応学習制御、制御システム設計	菅原 宏治 准教授 / 光電子物性工学、半導体材料工学、半導体量子構造デバイス、熱電変換材料、環境と高機能・高性能を両立する材料・プロセス・デバイスの開発
寛 幸次 教授 / 航空機エンジンタービンブレード用超合金、材料加工工学、金属組織学、機械材料学	諸貴 信行 教授 / 微粒子の自己整列のような自己組織プロセスを利用した微細加工に関する研究、それを応用した機能表面の設計	高橋 智 准教授 / 表面・界面工学、機械材料学、造熱・耐摩耗コーティング、溶射、超音波接合、国際標準
久保田 直行 教授 / 人に優しいパートナーロボットの研究開発、知的制御、行動学習、人間とのコミュニケーションに関する研究	楊 明 教授 / マイクロデバイスの製造・評価、MEMS生化学応用計測、マイクロ金属成形超精密な微小機械を創り、バイオや医療分野へ応用する新しいものづくり	武居 直行 准教授 / 人間支援ロボティクス、触覚テクノロジー、柔軟メカトロニクス、水中ロボティクス
児島 晃 教授 / ロバスト制御、予測制御法の開発とメカトロニクス・エネルギー・産業システムへの応用に関する研究	吉村 卓也 教授 / 振動工学、振動騒音解析、モード解析、ヒューマンダイナミクス	長井 超慧 准教授 / 形状モデリング、コンピュータグラフィックス、計算幾何
小林 訓史 教授 / 複合材料工学、材料力学、破壊力学、生体材料	若山 修一 教授 / 材料評価工学、生体力学、信頼性・健全性、薄膜太陽電池、セラミック	本田 智 准教授 / 精密工学、設計工学、マイクロマシン(MEMS)、メカトロニクス
下村 芳樹 教授 / 1. サービス工学研究(製造業による高付加価値実現手法の確立。サービスの設計支援ツール(サービスCAD)の開発。製品サービスシステム(PSS)) 2. 設計研究(創造的設計支援手法の開発) 3. ライフサイクル工学研究(環境調和型製品・サービス設計に関する研究)	伊井 仁志 准教授 / バイオメカニクス、計算力学、データ同化	三好 洋美 准教授 / 細胞のメカノバイオロジー研究に基づいた生体に優しいバイオマテリアルのデザインの確立
瀬尾 明彦 教授 / 人間工学、産業保健、生体力学	小方 聡 准教授 / 流体工学、抵抗低減、マイクロ・ナノ流体	和田 一義 准教授 / 福祉ロボット、空間型ロボットに関する研究
長谷 和徳 教授 / 人間機械システム工学、福祉工学、リハビリテーション工学、生体力学	小原 弘道 准教授 / 熱・流体工学、マイクロナノデバイス、医療・医用工学	木見田 康治 助教 / 製品サービスシステムの工学的設計、受給者視点に基づく品質評価
藤江 裕道 教授 / ロボットシステムなどを用いた関節バイオメカニクスの研究、幹細胞による組織再生工学とナノ構造等新規材料の応用、教育の修復とバイオトロボロジー	角田 直人 准教授 / 伝熱工学、熱物質移動現象の可視化、マイクロプラズマ応用	玉置 元 助教 / 機械工学、ヒューマン・ダイナミクス
	金子 新 准教授 / マイクロ・ナノ材料の機能向上のための表面修飾技術、自己組織化・自己集積による大規模微細構造の作製とマイクロ・バイオデバイスへの応用	豊田 充 助教 / 制御工学、動的システムの最適制御と機械的システムへの応用
	坂元 尚哉 准教授 / メカノバイオロジー、生体力学、細胞バイオメカニクス	林 祐一郎 助教 / 身体力学、生体運動計測・解析、多目的構造最適設計
	清水 徹英 准教授 / 薄膜工学、プラズマ工学、イオン化物理蒸着法、表面テクスチャリング	村上 和彦 助教 / 熱工学、冷凍工学、エネルギー変換工学
		鈴木 清道 助教 / バイオトロボロジー、バイオメカニクス
		吉田 真 助教 / 生体工学
航空宇宙システム工学域		
石井 昌憲 教授 / 宇宙空間で利用可能なセンシング基盤技術に関する研究や衛星データを利用する研究	武市 昇 教授 / 軌道最適化やデータ分析による航空交通管理の研究、宇宙エレベーター・太陽発電衛星・デブリ除去システムなど将来の宇宙システムの研究	櫻井 毅司 准教授 / ガスタービンやロケット、パルスドネーションエンジンにおける燃焼現象の解明と利用に関する研究
金崎 雅博 教授 / 航空機・宇宙機設計最適設計法についての理論・数値シミュレーション	北園 幸一 教授 / チタン、アルミニウム、マグネシウム等の航空宇宙用軽金属材料の材料設計、力学的特性の評価に関する研究	田川 俊夫 准教授 / 磁気力を用いた浮力対流および二相流の制御、液滴・気泡のダイナミクス、回転流体やマランゴニ対流の安定性、ハルトマン境界層の数値解法などに関する研究
小島 広久 教授 / スペースデブリや故障衛星の自律的捕獲回収を目的としたフリーフライト宇宙ロボットおよび導電性テザーシステムの力学、制御に関する研究	佐原 宏典 教授 / 超小型衛星を始めとする革新的な宇宙システム及び要素技術の研究開発とその利活用の開拓による未来の宇宙の創造	大島 草太 助教 / 先進複合材料構造の強度評価ならびに損傷・破壊挙動に関する研究
		鳥坂 綾子 助教 / 大型宇宙柔軟構造物の構築(挙動解析及び設計手法)に関する研究
		古本 政博 助教 / 宇宙の安全を脅かすスペースデブリの軌道や運動を観測・予測する研究
		小澤 啓伺 准教授 / 高速飛行体周りの空気力学に関する研究および光学計測法の開発
インダストリアルアート学域		
笠松 慶子 教授 / 人間工学、エビデンスベースデザイン、ヒューマンインタフェース	金 石振 准教授 / 製品イノベーションデザイン、サステナブルデザイン	ADAMS Vert 准教授 / Architecture, Spatial Design, Photography
菊竹 雪 教授 / ヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン	楠見 清 准教授 / メディア論、出版学、エディトリアルスタディーズ	安藤 大地 助教 / メディアアート
山本 久美子 教授 / メディアアート、インタラクティブアート、バーチャリアリティ	杉本 達彦 准教授 / データ可視化デザイン、情報デザイン、デジタルメディア表現文化研究	土屋 真 助教 / 空間デザイン
今間 俊博 教授 / 実写映像、3次元CG、アニメーション、ヴィジュアルエフェクト	馬場 哲晃 准教授 / インタラクティブデザイン	日高 良祐 助教 / 音楽ファイルフォーマットの社会的生成に関するメディア技術史
難波 治 教授 / 自動車デザイン、商品企画論	向井 智彦 准教授 / コンピュータグラフィックス技術、特に数値最適化や機械学習を用いたCGアニメーション制作やリギング技法に関する研究	茂木 龍太 助教 / デザイン方法論、プロダクトデザイン
藤原 敬介 教授 / インテリアデザイン		

※ 2021年3月定年退職予定

# 人間健康科学研究科

- 人間健康科学専攻
- > 看護科学域
  - > 理学療法科学域
  - > 作業療法科学域
  - > 放射線科学域
  - > フロンティアヘルスサイエンス学域
  - > ヘルスプロモーションサイエンス学域

人間健康科学研究科は、看護科学、理学療法科学、作業療法科学、放射線科学、フロンティアヘルスサイエンス(以上は荒川キャンパス)、ヘルスプロモーションサイエンス(南大沢キャンパス)の6つの学域から構成され、生理学的手法を用いる基礎的研究から、臨床研究やフィールド調査に至る幅広い研究に対応しており、さらに昼夜・土日にも授業や演習を開講するなど大学院生のニーズを反映していることが特長です。

## 人間健康科学専攻

### 看護科学域

<https://tmu-nursing.jp/>

入学定員 博士前期課程 / 10名、博士後期課程 / 4名

主な就職先 あびこ助産師専門学校、広島国際大学、東京都立大学法人 など



ゼミ風景

大都市で生活する人々および地域の「健康」をテーマとし、看護科学の研究・教育を通じて個人と集団の「健康」に寄与し、生活の質の向上と活力ある長寿社会の実現を目指しています。

博士前期課程では、看護倫理・管理学分野(看護倫理・管理学)、育成期看護学分野(助産学、リプロダクティブヘルス看護学、小児看護学)、成熟期看護学分野(成人看護学、療養生活支援看護学)、広域看護学分野(在宅看護学、公衆衛生看護学、地域精神看護学、国際看護/医療人類学)の各分野において、修士論文を作成する教育者・研究者養成プログラムを設けています。さらに、小児看護学の分野においては、専門看護師コースがあります。また、博士後期課程では、看護科学と保健医療分野におけるリーダーとなる人材を育成しています。

本学域の特色は、看護倫理に関する高度な専門的知識の創出と判断能力の育成、地域および医療機関における女性、小児、認知症高齢者などへのケアに関する理論と方法の開発、地域住民や学生ボランティアのエンパワーメント支援、行政と連携した看護ケアシステム開発に必要な能力の育成などのプログラムがあることです。

### 理学療法科学域

<https://www.hs.tmu.ac.jp/graduate/rigaku.html>

入学定員 博士前期課程 / 17名、博士後期課程 / 5名

主な就職先 東京慈恵会医科大学附属病院 など



座位バランスおよび垂直軸認知の測定実験風景

運動障害分析理学療法学分野(発達障害理学療法学・障害予防理学療法学・内部障害理学療法学・認知運動科学理学療法学・神経系障害理学療法学)、身体機能回復理学療法学分野(固有受容性神経筋促進学・徒手理学療法学・筋骨格理学療法学)、地域理学療法学分野の3つの研究分野を持ち、理学療法科学の創造力と応用力を備えた高度実践専門家や研究者を育成します。また、前期課程の徒手理学療法学コースでは、OMPTの取得を目指します。各分野では、健康・障害に関する理学療法の知識・技術と科学的思考能力を体系的・総合的に学び、発達や慢性疾患・生活習慣病などによる身体の障害予防や機能回復などに関する高度な理学療法専門技術の研究開発、地域における人々の健康づくり・社会参加の促進などに関する研究を進めていきます。また、昼夜開講制の採用により、昼間には医療職として現場での経験を蓄積し、夜間にはそれらを生かしつつ理学療法科学研究を進めることができるため臨床と研究の有機的展開を図ることが可能です。大学院生の多くは、その研究成果を国内・外の学会にも積極的に発表を行っています。

## TMU #EDUCATION



01

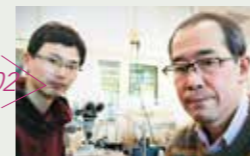
医療科学と健康科学を深く理解した実践家を育成し、長寿社会の活力を支える

01 医療現場の実践的知見に基づく教育研究

人間健康科学研究科は、看護、理学療法、作業療法、放射線の医療科学分野、および身体運動、栄養・食品、疫学、生命科学の健康科学分野の2分野において教育研究を推進しています。各分野とも医療現場における実践的知見に基づき活力ある長寿社会の実現を目指し、特に大都市で生活する人々の健康に関連する研究を進め、それぞれの学問体系を深化させるとともに、分野間で融合し新たな知見を創出して社会に発信しています。

02 医療や研究のプロが自らを高めるための学び

医療科学、健康科学とも、看護師、理学療法士、作業療法士、放射線技師等の医療職に就くには必須の知識です。学部卒業後、さらに自分の知識、技術を高め、高度医療専門職や研究者、教育者、さまざまな分野での医療・健康のスペシャリストを目指す人の学びの場が本研究科です。高い研究力や優れた臨床実践力を持った教員が、高い理想を持った大学院生と共に切磋琢磨し学び合う場が、本研究科にはあります。



02

### 作業療法科学域

<https://www.hs.tmu.ac.jp/graduate/sagyo.html>

入学定員 博士前期課程 / 10名、博士後期課程 / 4名



ゼミ風景

作業療法科学域では、大都市で生活する人々の「健康」をテーマとし、その研究・教育を通じて「健康」に寄与し、活力ある長寿社会の実現を目指します。

#### 心身機能作業療法科学分野

本分野は、認知作業療法学、脳機能障害支援学、児童青年発達期作業療法学、老年心理行動分析学の4領域で構成され、人間を構成する身体、精神・心理、発達の領域研究とそれぞれの学際性ならびに統合研究を行うことを目的としています。

#### 作業行動科学分野

本分野は、作業行動学、作業科学、精神作業療法学、老年地域参加支援学の4領域で構成され、臨床実践への応用やエビデンスの産出および理論に寄与する諸概念の理解を通して作業療法の可能性を探索することを目的としています。

#### 作業生活環境科学分野

本分野は、作業生活支援学、作業遂行分析学、福祉機器関連適用学、生活環境分析学の4領域で構成され、物的環境、人的環境、政策的環境、自然環境、文化的環境などが、いかにして人の作業参加を阻害・促進するのかを明らかにし、人の生活を豊かにする手だてを探索することを目的としています。

### 放射線科学域

<https://www.hs.tmu.ac.jp/graduate/housya.html>

入学定員 博士前期課程 / 21名、博士後期課程 / 6名

主な就職先 東京大学医学部附属病院、慶應義塾大学病院、がん研究会有明病院、神奈川県立がんセンター、がん・感染症センター都立駒込病院、JR東京総合病院、渋川医療センター、東部地域病院 など



最新鋭の放射線治療装置

放射線学の専門知識と最新技術の知見を教授することによって、①創造的かつ科学的思考に基づいた高度放射線専門職の育成、②専門領域における高度な知識、能力を有するのみならず、他領域の研究成果を理解し、それらを統合することによって先端医療技術を開発できる人材の育成を目指します。

博士前期課程では保健科学系学部はもちろんのこと、理工系学部・大学院出身者等の入学を視野に入れた統合的カリキュラムを採用しています。また、医学物理士認定機構認定の医学物理士の養成も目指しています。

授業は最近の研究動向や教員の研究成果に基づいた講義・演習で構成し、絶えず最新の知見を教授するように努めます。

施設面では、X線CT(MDCT)、MRI、CR、フラットパネルディテクタ(FPD)およびSPECT-CT装置などの診断装置、非密封RI 施設やリニアックなど放射線治療装置などがキャンパス内に実験・研究用として備えられており、充実した実験・研究が行われています。それらを背景に診断、治療等に関する先端的医療技術および医用画像処理技術・放射線計測法の開発を目指します。

# 人間健康科学研究科

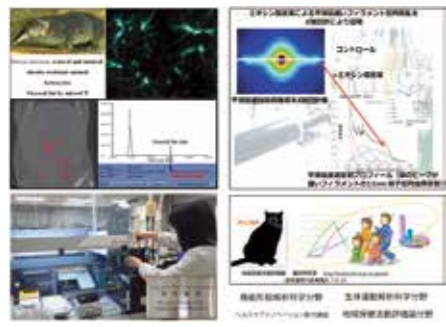
- 人間健康科学専攻
- > 看護科学域 > 放射線科学域
  - > 理学療法科学域 > フロンティアヘルスサイエンス学域
  - > 作業療法科学域 > ヘルスプロモーションサイエンス学域

## 人間健康科学専攻

### フロンティアヘルスサイエンス学域

[https://www.hs.tmu.ac.jp/graduate/frontier\\_health.html](https://www.hs.tmu.ac.jp/graduate/frontier_health.html)

入学定員 博士前期課程 / 4名、博士後期課程 / 2名



人間健康科学分野の諸課題に、生命科学、基礎・臨床医学などの学際的・先端基礎科学的研究戦略で、分子、細胞、器官、個体などのレベルからアプローチします。

学域は3分野と1寄附講座で構成され、①機能形態解析科学分野では、内臓自律神経の形態分布と臨床応用に関する研究、内臓脂肪蓄積の生理病態メカニズムの研究および膵がんを含む膵臓の病理病態解析の三つの方面の研究、②生体運動解析科学分野では、構造を保持した筋細胞における収縮装置構造・機能連関に関する研究、③地域保健活動評価論分野では、社会的側面の強い看護師等のケア関連事象の評価について、量的研究デザイン・疫学的研究方法・保健統計法を主体として研究、④ヘルスケアイノベーション寄附講座(Project Division for Healthcare Innovation)では、生活習慣病やがんなどの高額な医療費が必要となる疾患を対象に、早期に正確な診断を可能とするある種のホルモンやタンパク質のようなバイオマーカーについて高感度・高特異的な化学発光酵素免疫測定法に関する研究開発を行います。教育・研究を推進するために、他の学域などと柔軟で有機的な連携を行うほか、連携機関である東京都医学総合研究所や東京都健康長寿医療センターなどにおける最先端の総合的研究基盤を活用して、学際的・先端基礎科学的な研究・学問領域の高度な研究者・教育者、広い学識と高度な研究能力を有する実践的専門家を養成します。

### ヘルスプロモーションサイエンス学域

<http://www.tmu-hps.jp/>

入学定員 博士前期課程 / 8名、博士後期課程 / 4名

主な就職先 亀田リハビリテーション病院、羊土社、花王株式会社 など



動物用走行運動負荷装置を用いた実験の様子

ヘルスプロモーションサイエンス学域では、健康の保持増進に関する基礎および応用研究を通して健康に関する様々な専門的知識を身につけることにより、高度な課題解決能力を育成することを目的としています。さらに、自身の専門分野だけでなく、異なる専門分野とのコミュニケーションも取れる自立した研究者および幅広い学識を有する高度専門家を育成します。人間と健康に関する諸問題には極めて複雑な背景が存在し、その問題解決にはさまざまな分野からの学際的な検討による全体像の把握、構成因子の作用機序の解明、因果関係の理解が必要です。本学域では、心身の健康増進に関わる諸問題に対して、スポーツ科学、生命科学、認知科学等の観点から基礎的原理と真理を追究し、応用・実践を視野に入れた学際的理解を基軸とする新たな健康科学を創造・推進することを目指しています。

### 教員一覧 / 専門分野

#### 看護科学域

- 安達 久美子 教授 / 若年妊婦・出産、思春期の性と健康、ピアカウンセリング、熟練助産師、子育て支援
- 織井 優貴子 教授 / 高齢者看護、がん看護、シミュレーション教育
- 河原 加代子 教授 / 地域看護学、システム開発、腹式呼吸、誤嚥予防のケア、脳卒中、家族ケア
- 斉藤 恵美子 教授 / 公衆衛生看護学、公衆衛生看護活動に関する研究、コミュニティ・アセスメント
- 習田 明裕 教授 / 基礎看護学(フィジカル・アセスメント)、看護倫理学、看護技術のエビデンス、臓器移植看護
- 西村 ユミ 教授 / 成人看護学、病院看護の記述的研究、現象学的研究、遺伝性疾患をめぐる経験の語り
- 山村 礎 教授 / 地域における精神障害者の自立に関連する要因とケア
- 山本 美智代 教授 / 小児看護学、障がい者の家族への看護、災害看護

#### 理学療法科学域

- 浅川 康吉 教授 / 地域理学療法
- 網本 和 教授 / 脳挫傷による高次神経機能障害の評価と治療について
- 池田 由美 教授 / 運動・行為の発現に関する研究、運動学習、認知神経リハビリテーション
- 新田 収 教授 / 人の運動発達及び脳性麻痺における身体・運動学的な特徴について

#### 作業療法科学域

- 石井 良和 教授 / 精神領域の作業療法および人間作業モデルの評価・適用に関する研究
- 大嶋 伸雄 教授 / 身体障害の作業療法、認知リハビリテーション、リハビリテーション・マネジメント理論、保健医療福祉専門職連携理論(IPC)・連携教育(PE)に関する研究
- 小林 法一 教授 / 高齢者の地域作業療法に関する研究
- 小林 隆司 教授 / 地域包括ケアにおける作業の習慣化プロセスの解明と介入プログラムの開発
- 塩路 理恵子 教授 / 臨床精神医学、森田療法を中心とした精神療法、不安症・気分障害を中心とした精神病理学

#### 放射線科学域

- 小倉 泉 教授 / 診断用X線高電圧発生回路とその高電圧計測に関する研究
- 加藤 洋 教授 / 核的方法による元素分析、放射線防護に関する研究
- 齋藤 秀敏 教授 / 高精度放射線治療の物理、計測、照射法、品質管理に関する研究および医療情報学
- 白川 崇子 教授 / 放射線画像診断学、超音波診断学
- 妹尾 淳史 教授 / 医療機器を用いた生体内情報の可視化法の開発と応用

#### フロンティアヘルスサイエンス学域

- 易 動 教授 / 自律神経、人体構造学、臨床解剖学

#### ヘルスプロモーションサイエンス学域

- 北 一郎 教授 / 運動と情動の行動神経科学 / 呼吸循環反応の神経性調節
- 樋口 貴広 教授 / 空間移動行動(歩行、車いす)における知覚運動制御、知覚と行為のインタラクション
- 藤井 直晴 教授 / 分子生物学、運動生化学、内分泌代謝、筋収縮によって筋細胞に生じる現象(糖輸送/分泌/細胞内情報伝達/遺伝子発現)の解明

- 飯塚 哲子 准教授 / 成人看護学、終末期看護、デスエデュケーション
- 石川 陽子 准教授 / 国際看護・保健、看護政策、看護管理、医療政策
- 岡本 有子 准教授 / 在宅看護、エンドオブライフケア、老年看護
- 木村 千里 准教授 / 母性看護学・助産学、地域母子保健、ウイメンズ・ヘルス、育成期の家族の看護
- 島田 恵 准教授 / 慢性疾患患者への外来療養支援、HIV医療包括ケア体制の整備、HIV/AIDSコーディネーターの養成
- 園部 真美 准教授 / 母性看護学・助産学、乳幼児精神保健、母子相互作用と出産・育児
- 吉吉 啓子 准教授 / 小児看護学、慢性疾患のある子どもとその家族への看護
- 野村 亜由美 准教授 / 医療人類学、国際看護、基礎看護学、高齢者の認知症に関する学際的研究
- 菱沼 由梨 准教授 / 助産学教育、臨床教育の質の向上・臨床指導者育成に関わる研究、尺度開発

- 山田 拓実 教授 / 呼吸リハビリテーション、バイオメカニクス、整形外科徒手療法、高齢者転倒予防・介護予防
- 宇佐 英幸 准教授 / ヒトの運動に関する研究、徒手療法
- 来間 弘展 准教授 / 機能的磁気共鳴画像像を用いたヒトの運動に関する研究、徒手療法
- 信太 奈美 准教授 / 障害者スポーツに関する研究、補装具、脊髄損傷のリハビリテーション
- BONTJE Peter 教授 / 作業科学、身体障がいのある成人と高齢者の参加、多職種間連携とその教育、研究法:行為の中のナラティブ・参加型
- 石橋 裕 准教授 / 健康増進事業における作業療法支援の効果研究、化粧品を用いた作業療法プログラム(SSPC)の効果研究
- 伊藤 祐子 准教授 / 小児領域の作業療法、発達障害児・者、感覚統合、生活支援機器、特別支援教育における作業療法に関する研究
- 井上 薫 准教授 / 作業療法教育および福祉用具・評価・トレーニング機器の開発、医療・福祉ロボットの臨床応用

- 福士 政広 教授 / 核医学画像の定量化に関する研究と保健物理学および放射線科学教育に関する研究
- 古川 顕 教授 / 画像診断学、腹部・消化管画像診断学、救急疾患画像診断学、Interventional Radiology
- 井上 一雅 准教授 / 核医学、分子イメージング、環境放射線に関する研究
- 眞正 浄光 准教授 / 放射線感応素子の開発、および放射線計測システムの開発に関する研究、放射線化学、放射線計測システム

- 猫田 泰敏 教授 / 地域保健活動評価論、公衆衛生学、疫学

- 眞鍋 康子 准教授 / 筋収縮によって筋細胞に生じる現象(糖輸送/分泌/細胞内情報伝達/遺伝子発現)の解明、細胞生物学、運動分子生物学
- 山内 潤一郎 准教授 / 生体機能:神経-筋生理学、身体能力向上と生体機能の可能性と不思議を探索
- 西島 壮 准教授 / スポーツ神経科学、運動 / 身体不活動が脳機能に及ぼす影響とその神経メカニズムの解明

- 廣川 聖子 准教授 / 地域精神保健、訪問支援、自殺
- 福井 里美 准教授 / 成人看護学、がん看護学、慢性期疾患患者への心理社会的支援、サポートグループ実践研究、緩和ケアの実践知
- 増谷 順子 准教授 / 高齢者看護学、認知症高齢者看護、園芸療法
- 巖 千晶 助教 / 子ども立ち会い出産
- 大庭 貴子 助教 / 基礎看護学、造血幹細胞移植看護
- 奥村 朱美 助教 / 高齢者看護学に関する研究
- 川添 美花 助教 / 地域精神保健、精神的な問題を抱えた若年者へのケア
- 坂井 志織 助教 / 成人看護学、現象学的研究、しびれの経験に関する研究、慢性の病い経験
- 前田 耕助 助教 / 基礎看護学、看護技術のエビデンス
- 三輪 聖恵 助教 / 基礎看護学、新卒看護師の職場適応に関する研究
- 村上 優子 助教 / 成人看護学、現象学的研究、外傷により脊髄を損傷した人の経験の研究
- 吉羽 久美 助教 / 公衆衛生看護学

- 古川 順光 准教授 / 内部障害理学療法学、障害科学、応用健康科学、体力医学
- 神尾 博代 助教 / リハビリテーション科学、応用健康科学、ウイメンズヘルス
- 田島 敬之 助教 / 身体活動と健康に関する研究、ヘルスプロモーション、公衆衛生学、運動疫学、予防理学療法
- 蘭牟田 洋美 准教授 / 高齢者心理学:閉じこもり高齢者への心理的支援法、高齢者の居場所感の研究
- 谷村 厚子 准教授 / 精神科領域の作業療法に関する研究、地域精神保健サービスに関する研究、作業療法教育に関する研究
- 橋本 美芽 准教授 / 高齢者・障がい者の障害特性と住環境・福祉用具の適合に関する研究、認知症高齢者の住環境整備に関する研究
- 宮本 礼子 准教授 / functional MRIを用いたヒトの自己認識に関する研究、高次脳機能障害作業療法学教育に関する研究、学生の総合臨床実習に関する自己認識の研究、作業療法学生の自己認識に関する国際比較研究

- 関根 紀夫 准教授 / 医用画像工学、医用画像解析学、教育工学
- 乳井 嘉之 准教授 / 医用画像情報学、医用画像処理、医用画像の映像化法および統計解析に関する研究
- 根岸 徹 准教授 / 医療被ばくの最適化に関する研究、乳房用X線装置の精度管理に関する研究
- 沼野 智一 准教授 / 画像診断技術学、磁気共鳴画像技術学
- 明上山 温 准教授 / 医用画像処理、3次元画像処理、高精度放射線治療技術

- 渡邊 賢 教授 / 筋内生理学、分子細胞生理学に関する研究、X線解析法などを用いた筋肉細胞の構造・機能連関に関する研究

- 井村 祥子 助教 / スポーツバイオメカニクス、回転動作、体幹と体肢の協調運動バランス、ダンスのバイオメカニクス
- 福原 和伸 助教 / スポーツ選手の知覚、認知スキルの解明、仮想現実を利用したトレーニングシステムの構築
- 古市 泰郎 助教 / 運動生化学、骨格筋生物学、骨格筋の可塑性を制御する細胞内機構の探索

※ 2021年3月定年退職予定

## 大学院入試状況 (2020年4月1日現在)

### 人文科学研究科

専攻	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
社会行動学専攻	14名	94名	15名	14名	10名	9名	3名	3名
人間科学専攻	17名	112名	23名	20名	6名	12名	9名	9名
文化基礎論専攻	13名	19名	7名	6名	5名	1名	1名	1名
文化関係論専攻	5名	31名	9名	8名	4名	—	—	—

### 法学政治学研究科

専攻	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
法学政治学専攻 法律学分野/政治学分野	若干名	25名	8名	7名	若干名	2名	1名	1名

専攻	専門職学位課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
法曹養成専攻(法科大学院)	40名	149名	55名	37名

### 経営学研究科 経営学専攻

プログラム	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
経営学プログラム		96名	36名	30名				
経済学プログラム	50名	22名	6名	4名	5名	8名	7名	7名
ファイナンスプログラム		20名	15名	12名				

### 理学研究科

専攻	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
数理科学専攻	25名	42名	29名	25名	8名	7名	7名	6名
物理学専攻	35名	79名	49名	38名	10名	11名	11名	11名
化学専攻	35名	63名	39名	36名	9名	3名	3名	3名
生命科学専攻	40名	49名	37名	27名	16名	15名	15名	15名

### 都市環境科学研究科 都市環境科学専攻

学域	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
地理環境学域	15名	21名	16名	16名	5名	2名	2名	2名
都市基盤環境学域	35名	57名	39名	35名	4名	2名	2名	2名
建築学域	35名	53名	46名	33名	4名	2名	2名	2名
環境応用化学域	50名	72名	56名	55名	6名	5名	5名	5名
観光科学域	15名	29名	19名	16名	5名	1名	1名	1名
都市政策科学域	15名	27名	14名	13名	5名	4名	4名	4名

### システムデザイン研究科 システムデザイン専攻

学域	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
情報科学域	35名	75名	47名	42名	6名	9名	9名	9名
電子情報システム工学域	60名	91名	76名	65名	6名	6名	6名	6名
機械システム工学域	65名	136名	93名	84名	6名	8名	8名	8名
航空宇宙システム工学域	30名	76名	44名	39名	4名	5名	4名	3名
インダストリアルアート学域	25名	53名	34名	31名	4名	2名	1名	1名

### 人間健康科学研究科 人間健康科学専攻

学域	博士前期(修士)課程				博士後期(博士)課程			
	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
看護科学域	10名	22名	12名	12名	4名	10名	4名	4名
理学療法科学域	17名	25名	17名	17名	5名	13名	6名	6名
作業療法科学域	10名	20名	12名	12名	4名	6名	4名	4名
放射線科学域	21名	27名	21名	21名	6名	5名	5名	5名
フロンティアヘルスサイエンス学域	4名	2名	2名	2名	2名	2名	2名	2名
ヘルスプロモーションサイエンス学域	8名	12名	9名	9名	4名	2名	2名	2名

## 学費 (2020年度)

研究科名	課程	授業料	入学金	
			東京都の住民*	その他の住民
人文科学研究科	博士前期課程 博士後期課程	520,800円	141,000円	282,000円
法学政治学研究科	博士前期課程 博士後期課程			
経営学研究科	博士前期課程 博士後期課程			
理学研究科	博士前期課程 博士後期課程			
都市環境科学研究科	博士前期課程 博士後期課程			
システムデザイン研究科	博士前期課程 博士後期課程			
人間健康科学研究科	博士前期課程 博士後期課程			

専攻名	課程	授業料	入学金	
			東京都の住民*	その他の住民
法曹養成専攻(法科大学院)	2年履修課程 3年履修課程	663,000円	141,000円	282,000円

\*「東京都の住民」とは、本人又はその者の配偶者若しくは一親等の親族が入学の日(2020年4月1日)の1年前(2019年4月1日)から引き続き東京都内に住所を有する者をいいます。その認定は、本人が東京都内に在住の場合は本人の「住民票記載事項証明書」、その他の場合は東京都内に在住する親族等の「住民票記載事項証明書」及び本人との親族関係を明らかにする戸籍抄本等により行います。

## 奨学金

### 博士後期課程研究奨励奨学金

本学大学院博士後期課程に入学する研究意欲が旺盛で優秀な学生に対し、経済的な理由で進学を断念することなく、研究に専念できる環境を提供し、研究奨励のために支給する給付型の奨学金制度です。

### 大学院生支援奨学金

本学大学院において研究・学業に取り組んでいる学生に対し、経済的支援をするとともに、公立大学法人として優秀な人材を輩出することを目的として創設された給付型の奨学金制度です。

### 日本学生支援機構奨学金(2020年度貸与月額)

日本学生支援機構は、国の育英事業を行っている機関です。貸与を受けることができる奨学金は、「第一種」と「第二種」があり、両方を併用することもできます。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課程</th> <th>博士前期課程 専門職学位課程</th> <th>博士後期課程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一種奨学金</td> <td>50,000円・88,000円</td> <td>80,000円・122,000円</td> </tr> <tr> <td>第二種奨学金</td> <td colspan="2">50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円 のいずれか 法科大学院生は、別途金額設定あり</td> </tr> </tbody> </table>	課程	博士前期課程 専門職学位課程	博士後期課程	第一種奨学金	50,000円・88,000円	80,000円・122,000円	第二種奨学金	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円 のいずれか 法科大学院生は、別途金額設定あり	
課程	博士前期課程 専門職学位課程	博士後期課程								
第一種奨学金	50,000円・88,000円	80,000円・122,000円								
第二種奨学金	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円 のいずれか 法科大学院生は、別途金額設定あり									

### 民間・地方公共団体奨学金

奨学金には、日本学生支援機構以外にも民間団体や地方公共団体が募集する奨学金があります。

大学院生に対する経済支援制度については、本学ウェブサイトにも掲載しております。

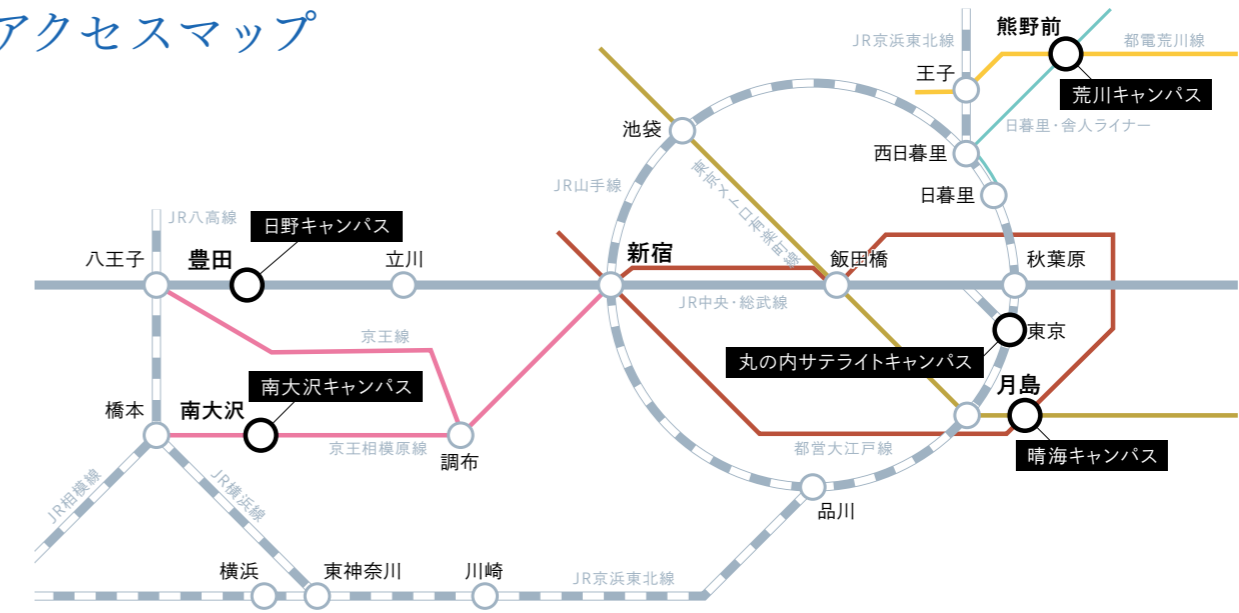
<https://www.tmu.ac.jp/entrance/graduate/about.html>

# 大学院選考日程

研究科名	課程	区分	出願期間	選考日	合格発表	問い合わせ	
人文科学研究科	博士前期課程	9月入試	郵送 8/17~8/21	9/23, 24	10/2	文系学務課 人文社会学部教務係 ☎042-677-2053	
		2月入試	郵送 1/4~1/8	2/16, 17	3/1		
	博士後期課程		郵送 1/4~1/8	2/18, 19	3/1		
法学政治学研究科	博士前期課程	2020年10月入学 外国人特別選抜	郵送 8/3~8/7	9/4	9/8	文系学務課 法学部教務係 ☎042-677-2253	
		4月入学(9月入試)	郵送 8/3~8/7	9/4	9/8		
		4月入学(9月入試) 外国人実務家	郵送 8/3~8/7	9/4	9/8		
		4月入学(2月入試)	郵送 1/4~1/8	2/12	2/19		
	4月入学(2月入試) 外国人実務家	郵送 1/4~1/8	2/12	2/19			
	4月入学(2月入試) 外国人特別選抜	郵送 1/4~1/8	2/12	2/19			
博士後期課程	2020年10月入学(9月入試)	郵送 8/3~8/7	9/4	9/8			
	4月入学(2月入試)	郵送 1/4~1/8	2/12	2/19			
法曹養成専攻 (法科大学院)	専門職学位課程	2年履修課程	未定(昨年度は1次試験10/26、2次試験11/23)			文系学務課 法曹養成専攻担当 ☎03-3536-7756	
		3年履修課程	未定(昨年度は1次試験10/26、2次試験11/23)				
経営学研究科	博士前期課程	一般選抜(9月入試)	郵送 7/27~7/31	9/5	9/28	文系学務課 経済経営学部教務係 ☎042-677-2303	
		一般選抜(2月入試)	郵送 1/4~1/8	2/13	3/1		
	公共経営特別選抜 (経営学プログラムのみ)	郵送 1/4~1/8	2/13	3/1			
	2020年10月入学(9月入試)	郵送 7/27~7/31	9/5	9/11			
博士後期課程	2021年4月入学(2月入試)	郵送 1/4~1/8	2/13	3/1			
理学研究科	博士前期課程	2020年10月入学	郵送 7/30~8/6	8/25, 26	9/4	理系学務課 理学部教務係 ☎042-677-2444	
		夏季入試	郵送 7/30~8/6	8/25, 26	9/4		
	冬季入試	郵送 1/12~1/19	2/9, 10	2/22			
	2020年10月入学	郵送 7/30~8/6	8/24	9/4			
博士後期課程	2021年4月入学	郵送 1/12~1/19 持参 1/20	2/8	2/22			
都市環境科学研究科	博士前期課程	夏季入試 [2020年10月入学 2021年4月入学]	7/7~7/14	8/12, 13 8/12 8/12, 13 8/12, 13 8/12, 13 8/12, 13	8/28	理系学務課 都市環境学部教務係 ☎042-677-2694	
		冬季入試 [2021年4月入学]	1/5~1/12	2/4 2/4 2/4 2/5 2/4, 5	2/18		
	夏季入試 [2020年10月入学 2021年4月入学]	7/7~7/14	8/12, 13 8/13 8/13 8/12 8/12 8/13 *2020年10月入学のみ実施	8/28			
	冬季入試 [2021年4月入学 2021年10月入学]	1/5~1/12	2/4 2/5 2/5 2/5 2/5 2/5 *2021年4月入学のみ実施	2/18			
システムデザイン研究科	博士前期課程	夏季入試	7/6~7/9	8/19, 20	9/4	東京都立大学 日野キャンパス 管理部学務課教務係 ☎042-585-8623	
		冬季入試	1/4, 5	1/21	1/29		
	博士後期課程	夏季入試	7/6~7/9	8/19, 20	9/4		
		冬季入試	1/4, 5	1/21	1/29		
	2020年10月入学	5/7, 8	5/29	6/19			
人間健康科学研究科	博士前期課程	夏季入試	7/28~8/3	9/7	9/29	東京都立大学 荒川キャンパス 管理部学務課教務係 ☎03-3819-7124	
		冬季入試	12/9~12/15	1/30	2/16		
	博士後期課程	夏季入試	7/28~8/3	9/7	9/29		
		冬季入試	12/9~12/15	1/30	2/16		

※選考日程は予定です。本学ウェブサイトおよび募集要項で必ずご確認ください。

# アクセスマップ



## 南大沢キャンパス

- > 人文科学研究科
- > 法学政治学研究科  
(法学政治学専攻)
- > 経営学研究科
- > 理学研究科
- > 都市環境科学研究科
- > システムデザイン研究科  
(電子情報システム工学域・機械システム工学域の一部)
- > 人間健康科学研究科  
(ヘルスプロモーションサイエンス学域)

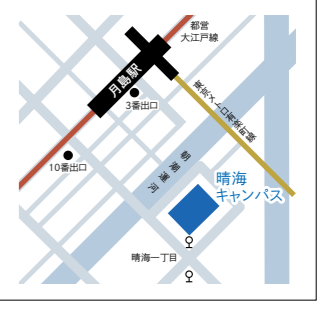


**所在地**  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
TEL.042-677-1111(代表)

**アクセス**  
京王相模原線「南大沢」駅、改札口から徒歩5分  
\*改札口を出て右手に緑に囲まれたキャンパスが見えます。

## 晴海キャンパス

- > 法曹養成専攻  
(法科大学院)

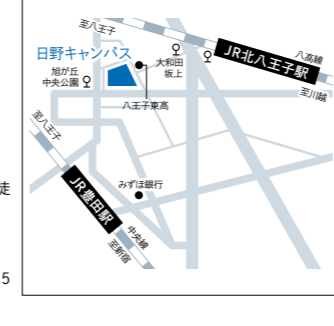


**所在地**  
〒104-0053 東京都中央区晴海1-2-2  
TEL.03-3536-7756(代表)

**アクセス**  
東京メトロ有楽町線・都営地下鉄大江戸線  
「月島駅」下車10番出口 徒歩約5分

## 日野キャンパス

- > システムデザイン研究科



**所在地**  
〒191-0065 東京都日野市旭が丘6-6  
TEL.042-585-8606(代表)

**アクセス**  
JR「豊田」駅から徒歩約20分、またはバス・徒歩で約15分  
JR「八王子」駅からバス・徒歩約25~40分  
JR「北八王子」駅から徒歩約15分  
京王線「京王八王子」駅からバス・徒歩約25~40分

## 荒川キャンパス

- > 人間健康科学研究科  
(ヘルスプロモーションサイエンス学域を除く)



**所在地**  
〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10  
TEL.03-3819-1211(代表)

**アクセス**  
日暮里・舎人ライナー「熊野前」駅下車徒歩3分  
都電荒川線「熊野前」駅下車徒歩3分  
JR「田端」駅から都バス端44系統「北千住駅行」乗車「都立大荒川キャンバス前」下車  
JR常磐線、つくばエクスプレス、東京メトロ「北千住」駅から都バス端44系統「駒込病院前行」乗車「都立大荒川キャンバス前」下車



東京都立大学  
旧首都大学東京

人文科学研究科 法学政治学研究科 経営学研究科 理学研究科  
都市環境科学研究科 システムデザイン研究科 人間健康科学研究科

南大沢キャンパス

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
TEL. 042-677-1111(代)

日野キャンパス

〒191-0065 東京都日野市旭が丘6-6  
TEL. 042-585-8606(代)

荒川キャンパス

〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10  
TEL. 03-3819-1211(代)